

大阪市立東中学校 令和 2 年度 運営に関する計画・自己評価(総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

校区は旧東区全域と広く、住居は主に校区東側に多い。生徒は、全体的に落ち着いた状況の中で学校生活を送っている。しかし近年、保護者が経済的な問題を抱えていたり、保護者が夜間不在であったり、生徒の監護が希薄な家庭が増えてきており、生活指導面でより一層のきめ細かな対応が求められている。特に、私立中学校をはじめとする他校からの転入生が、不登校傾向をはじめ、様々な問題を抱えている場合が顕著である。それは、転校理由として、いじめが原因で不登校に陥り、転校を余儀なくされた例や生活指導上の問題行動を抱え、友人関係を断ち切り環境を変えるべく転校してくるケースが多数を占める。

また、本校に通学する生徒の家庭環境をみると、比較的裕福な家庭が多い。しかし、保護者の子育て経験の未熟さや過保護から、生徒は基本的な生活習慣を身につけることができず、遅刻・欠席するケースや問題行動を起こしがちな生徒も見受けられる。一方で、お金だけを与える、子どもの成長に関心をもたず、ネグレクト状態にある生徒が毎年 20 名ほど在籍している。そのような生徒の中には、興味・関心をもち何かに取り組むといったよりよく生きようという意欲も欠け、不登校に発展しているケースもある。対策として、スクールカウンセラーや子ども相談センター等の関係諸機関との連携などを積極的に行っているが、生徒指導主事を始め学級担任においても日々の教育活動に忙殺され、時間的な余裕がなく根本的な解決には至っていないケースもある。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

市

1. 令和 2 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95% 以上にする。
2. 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を 95% 以上にする。
3. 令和 2 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を平成 28 年度より減少させる。
4. 令和 2 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を平成 28 年度より減少させる。

学校園

1. 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 95% 以上にする。
2. 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 75% 以上にする。
3. 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」の項目に

ついて、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を75%以上にする。

4. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
5. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。
6. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。
7. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につき、本を読むことが好きになった」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を75%以上にする。
8. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合を70%以上にする。また、令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取り組みを行っている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を85%以上にする。
9. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合を95%以上にする。
10. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取り組みに参加している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
11. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を100%にする。
12. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さ感じることができた」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
13. 令和2年度性教育事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

市

1. 令和2年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（2年1.08、3年1.11）より向上させる。
2. 令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合

を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント減少させる。

3. 令和 2 年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。
4. 令和 2 年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（92%）より増加させる。
5. 令和 2 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である 50m 走と立ち幅とびの平均の記録を、平成 28 年度より 50m 走(男子 8.05 ・ 女子 8.98) は 0.1 ポイント、立ち幅とび(男子 195.00 ・ 女子 167.84) を 3 ポイント向上させる。

学校園

1. の令和 2 年度学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90% 以上にする。
2. 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 95% 以上にする。
3. 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 70% 以上にする。
4. 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90% 以上にする。
5. 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「学校は ICT 機器を活用して、授業実践に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 80% 以上にする。
6. 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 80% 以上にする。
7. 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 90% 以上にする。
8. 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 70% 以上にする。
9. 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 85% 以上にする。
10. 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 70% 以上にする。

【その他】

学校園

- 令和2年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を100%にする。
- 令和2年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を100%にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- 令和2年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童（生徒）の割合を95%以上にする。
- 令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。
- 令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。

学校園の年度目標

- 令和2年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。
- 令和2年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を75%以上にする。
- 令和2年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を75%以上にする。
- 令和2年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を75%以上にする。
- 令和2年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。
- 令和2年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。

7. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につき、本を読むことが好きになった」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を75%以上にする。
8. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合を70%以上にする。また、令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取り組みを行っている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を85%以上にする。
9. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりもよく知ることができる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合を95%以上にする。
10. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取り組みに参加している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
11. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を100%以上にする。
12. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大きさ感じることができた」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
13. 令和2年度性教育事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

1. 令和2年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（2年1.08、3年1.11）より向上させる。
2. 令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
3. 令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
4. 令和2年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（54%）より増加させる。
5. 令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である50m走と立ち幅とびの平均の記録を、平成28年度より50m走（男子8.05・女子8.98）は0.1ポイント、立ち幅とび（男子195.00・女子167.84）を3ポイント向上させる。

学校園の年度目標

1. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授の授業はわかりやすい」の

項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。

2. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を95%以上にする。
3. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を70%以上にする。
4. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。
5. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校はICT機器を活用して、授業実践に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を80%以上にする。
6. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。
7. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を90%以上にする。
8. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。
9. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。
10. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。

【その他】

学校園の年度目標

1. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を100%以上にする。
2. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を100%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

全市共通目標（小・中学校）

- 令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。

1について、事象発生ごとに「いじめ防止対策委員会」を開き、慎重な審議のうえに指導にあたってきた。その結果、95%以上を解消することが達成できていると考える。今後も生徒会を中心とした「いじめについて考える日」の実施において、生徒が主体的にいじめについて考え方行動する取組を展開する。また、「いじめ事案を予防する環境づくり」について、さらに充実した取組を実践していきたい。

- 令和2年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を95%以上にする。

2について、肯定的に答える生徒の割合は97%となり、年度目標を2ポイント(+)で達成している。今後もきめ細かな指導を継続しながら、規範意識の更なる向上をめざす。

- 令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。

3について、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させるについても、この項目に該当する事象は発生していない。日頃の生徒への丁寧な指導を継続するとともに、暴力行為を許さない集団の育成を進める。

- 令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。

4について、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させることはできていない。しかしながら、不登校生に対する家庭訪問の実施や情報交換の充実、関係諸機関との連携は深まっており、各学年、各学級において不登校生に対する支援、および家庭との連携は向上している。増加傾向にある不登校生について、個々のケースを分析し必要があれば積極的に関係諸機関と連携をしながら、寄り添った指導を継続して展開できるような環境の構築をめざす。教職員対象の不登校についての学校生活アンケート結果が向上したことを受け、今後も更に「孤立感」を感じさせない組織的な対応の充実に努めたい。令和3年度は生活指導支援員の配置（週2日）を活用し課題解消に繋げたい。

学校園の年度目標

- 令和2年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。

1について、肯定的に回答する生徒の割合は93%と目標を2ポイント下回った。コロナ禍において、集団での活動に制約があり、多くの活動ができなかつたことが原因と考えられる。今後は、本校の班活動をはじめとした仲間を大切にする集団育成を通じて、一人ひとりが自らの役割を全うして達成感を感じる場面を増やし、人間関係の構築に必要な力を

つけさせたい。

2. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。
2について、肯定的に答える生徒の割合が95%となり、昨年度を2ポイント上回った。年度目標も25ポイント(+)となった。令和2年後期学校生活アンケート結果では、目標を大きく上回っているが、交通事故や犯罪、事故は予測が不可能であるため継続的に講話などを通して、生徒たちに交通ルールやマナーを順守する意識をさせ未然防止を図る必要がある。今後も全校集会での講話、定期的な巡視、リーフレットの配布などの啓発活動に努めたい。
3. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。
3について、肯定的に答えた生徒の割合は後期で77%となり、目標を達成している。2回目の避難訓練は火災に伴う訓練で、消防署の立ち合いのもとで実施した。昨年度の消防署の方より指導いただいた事項は、今年度の避難訓練に取り入れて実施できた。新型コロナウイルス対策で1回目と同様、間隔を開けて歩いて行動し避難経路の確認を目的に行つた。避難に要した時間は4分52秒かかったが、消防署の方からは、慌てず安全に避難が出来ていたと評価をいただいた。今年度は、初期消火活動について次年度への課題をいただいた。
4. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を75%以上にする。
4について、肯定的に回答する生徒の割合は昨年度より1ポイント上回って80%となり、目標を達成することができた。定例の教育相談や進路相談のみならず、普段から生徒に寄り添いながら細やかな声掛けと丁寧な説明を心掛け生徒理解を深めていきたい。
5. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。
5について、肯定的に答える生徒の割合は95%となり、目標を達成することができた。前期の集中実践として平和学習を変更し、新型コロナウィルス感染症に関わる差別・いじめの人権学習を行った。後期集中実践において、1年生は外部講師を招いて手話講習会を実施した。
6. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を92%以上にする。
6について、肯定的に回答する生徒の割合は88%となり、目標を4%下回った。職場体験学習やプレハイスクールセミナーなどの体験的な活動を積み上げながら、自分自身を

見つめることで3年次の進路指導につなげるなど、発達段階に応じた体系的な取組を継続していく。

7. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につき、本を読むことが好きになった」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。

7について、肯定的に答える生徒の割合は全体の77%で目標を7ポイント上回った。読書習慣については、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、学年や教科で図書室利用が制限されたが、次年度は図書館利用を含め、読書習慣の取組をさらに進め、年度目標達成をめざす。

8. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合を65%以上にする。また、令和元年度の学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取り組みを行っている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を80%以上にする。

8における学校教育活動に参加に関する項目について、肯定的に答える保護者の割合は79%であり、目標を達成することができた。また、保護者や地域に関わる取組に関する項目について、肯定的に答える教職員の割合は97%であった。すべての教職員が保護者・地域との関わりを大切にする姿勢により学校・家庭・地域の協力体制が築かれている。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校行事やPTA活動に制限がある状況下ではあったが、保護者メールや学校ホームページ、各種通信等による情報発信に取り組み、創意工夫をした開かれた学校づくりを推進し、学校・家庭・地域による、より強固な協力体制の構築をさらに進めていきたい。

9. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりもよく知ることができる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合を90%以上にする。

9について、肯定的に答える保護者の割合は98%で昨年度を3ポイント上回って目標を達成した。今後も保護者や地域の方々に本校の教育内容をより理解してもらうために、学年だよりの発行とともにホームページの更新に努める。

10. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取り組みに参加している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。

10について、新型コロナウイルス感染症の拡大防止による休校や、図書館開館、学習会の実施には制限があったこともあり、図書と学習会で延べ図書館利用者は3625名と昨年(5310名)より減少した。また、図書館の利用や学習会を通して、学校元気アップ事業に参加しているという生徒の意識が低く、アンケート結果は33%と目標を下回った。次年度も、利用や参加者・ボランティアがさらに増えるよう活動情報を積極的に発信していく。

11. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を95%以上にする。

11について。肯定的に答える教職員の割合は100%であり、目標を達成することができた。2ヶ月に1回の特別支援教育委員会や学年会などにおける情報共有に加えて、日頃から特別支援学級担任から通常学級担任との情報共有がきっちりと行われている成果と考えられる。今後も生徒や保護者に対してきめ細かな対応を図り、保護者の願いを丁寧に受け止めながら、特別支援学級生徒が学級や学年の一員として、充実した学校生活が送れるように個々の生徒に合わせた支援を行っていく。

12. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大きさ感じることができた」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。

12について、肯定的に答える生徒の割合は89%であり、目標を達成することができた。芸術鑑賞については、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため制限された部分が多くなったが、DVDによる鑑賞行事などを工夫しながら実施することができた。アンケート等を活用しながら事後の効果検証を着実に行いたい。

13. 令和2年度性教育事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。

13について、肯定的に答える生徒の割合は92%となり、目標を大きく上回った。1年生は生命の誕生やLGBTQについて助産師の講演や疑似体験等を実施した。2年生は男女交際・性被害について、3年生は性感染症についての内容を保健体育の授業の中で実施した。今後も生徒の実態に合わせた性教育を計画し実施していく。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

全市共通目標（小・中学校）

1. 令和2年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（2年1.08、3年1.11）より向上させる。

1について、3年の中学生チャレンジテストは実施されなかった。2年については、5教科の対府平均比は1.14であった。3教科の対府平均比は、1.16で、3教科の対府平均比は昨年度の1.08であったのに対し、本年度は0.08ポイントで前年度より向上した。なお、1年の3教科の対府平均比は1.16であった。さらに公開授業等の研修を生かし、次年度も授業改善に努め、チャレンジテストの結果の向上に繋げていく。

2. 令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。

2について、昨年10.3%であったものが、本年度は13.6%と3.3ポイント増加し、目標を達成することができなかつた。授業や懇談、集会等で、学習内容・学習方法・評価方法等を保護者や生徒に理解してもらえるよう努める。

3. 令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- 3について、2年は昨年度31.5%であったのに対し、本年度は44.0%と12.5ポイント増加し、目標を達成することができた。なお、1年は50.8%であった。チャレンジテストに向けて、次年度も予習・復習に活用できるような家庭学習教材の提供や自主的学習を促すような授業・教材をより工夫し、提供する。
4. 令和2年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 4について、肯定的に答える生徒の割合は92%となり、前年度と同様のポイントとなった。話し合う活動の機会を確保しながら、根拠に基づいた考えを発表し再考させることで、自らの考えを深めたり広げたりする学習展開を実践していく。
5. 令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である50m走と立ち幅とびの平均の記録を、平成28年度より50m走は0.1ポイント、立ち幅とびを3ポイント向上させる。
- 5について、50m走は男子が0.11ポイントマイナス、女子は0.25ポイントマイナスとなった。立ち幅とびは男子が5.32ポイントマイナス、女子は2.28ポイント向上した。今後は、運動やスポーツに対する興味関心を高められるよう授業内容の工夫・改善を図りたい。3ヶ月の臨時休業（ステイホーム）の影響も考えられるので、運動習慣の見直しも行いたい。

学校園の年度目標

1. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授の授業はわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。
- 1について、肯定的に答える生徒の割合は国語86%、数学91%、英語89%となり、目標を達成することができた。今後も生徒の実態に即したクラス編成を行い、学力向上に向けて丁寧な学習指導を進めていく。
2. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を95%以上にする。
- 2について、肯定的に答える教職員の割合は91%となり、目標を4ポイント下回った。コロナ禍において、班活動等による言語活動に制限がかかった影響があると考えられる。さらに公開授業等で研修を生かし、次年度も授業の工夫と改善に努め、思考力・判断力・表現力の更なる育成を図る。
3. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館

を活用した授業づくりを進めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 70%以上にする。

3について、肯定的に答える教職員の割合が 87%と目標を 17 ポイント大幅に上回ることができた。今年度はコロナ禍における図書室の使用にも制限がかかったが、今後は調べ学習や資料提示等に対応しうる図書整備を進めながら、学校図書館の充実に努める。

4. 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 90%以上にする。

4について、肯定的に答える生徒の割合は 88%（前年度と同様）となり、目標に 2 ポイント届かなかった。コロナ禍で活動が制限されてくる中ではあるが、高い数値を維持することができた。今後も限られた C-NET（大阪市外国人英語指導員）の授業を効果的に活用し、また、さまざまなアクティビティを取り入れることで、英語を活用する実践的な力と積極的な態度を育成する。

5. 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「学校は ICT 機器を活用して、授業実践に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 80%以上にする。

5について、肯定的に答える教職員の割合は 97%となり、目標を 17 ポイント上回った。新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、GIGA スクール構想の実現も早まり、ICT 機器を使用する機会が増え、それに伴う研修の機会も増えた。アンケート結果はその成果と考えられる。次年度は、いよいよ一人一台の端末環境を実現・充実させるため、環境整備や授業展開の中で ICT 機器を活用するための研修を実施していく。

6. 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 75%以上にする。

6について、肯定的に答える生徒の割合は 91%（3 年生のみ対象）となり、目標を達成することができた。他の領域と関連させたり、分野間や教科間で連携を図ったりしながら、論理的思考の育成に取り組んでいきたい。

7. 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 90%以上にする。

7について、肯定的に答える教職員の割合は 94%であり、目標を達成することができた。今年度は電子翻訳機を購入し、各学年に 1 台ずつ配備するとともに、区役所事業による外国籍生徒サポートーを活用し、日本語指導の充実を図った。

8. 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業

や部活動等に積極的取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。

8について、肯定的に答える生徒の割合は89%となり、年度目標である70%を大きく上回った。運動に対して意識の高い生徒たちに、教師側からの一方的な授業展開ではなく、生徒たちの主体的な活動の中で思考力や判断力を育む授業展開に重点を置き、「心身ともに鍛え抜かれる東中学校の体育」を実践していきたい。そのための参考資料として各種目のデータ公開や電子黒板等のICT機器を積極的に活用し、生徒たちの思考力・判断力を育む資料の提供にも注力していきたい。

9. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりとし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。

9について、肯定的に答える生徒の割合は98%となり、目標値を大きく上回った。特に今年度は、新型コロナウイルスへの対策で手洗い・うがいを意識することや実施する機会が多く、その必要性を実感してのアンケート結果と考えられる。R2前期の時よりもさらにポイントが上がったのは、意識の継続が出来ていることと、手洗い・うがいの定着が考えられる。今後も生徒が健康を意識して日常生活をおくるよう、啓発活動を続ける。新型コロナウイルスへの対策も日々の検温・手洗い指導・マスクの着用・消毒作業等を通して意識を持ち続けさせる取組を進めていく。

10. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。

10について、肯定的に答える生徒の割合は83%となり、目標値を大きく上回った。『食育だより』は月一回のペースで配布した。保健委員会では、給食終了後に配膳室前で給食の片づけの活動を行い、役割分担としても定着してきた。今後も給食を通して、生徒が健康的な正しい食生活を身につけられるように働きかけていく。

【その他】

学校園の年度目標

1. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を100%にする。

1について、肯定的に答える教職員の割合は94%で、目標を6ポイント下回った。今年度のアンケート結果をもとに、次年度も教育活動の諸課題解決に向けた実践力向上をめざす。また、研鑽を積むことの必要性の啓発や、よりニーズに合ったテーマを精選し、主体的な学びが構築できるよう研修を定期的に実施し、アンケート結果100%をめざす。

2. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を100%にする。

2について、肯定的に答える教職員の割合は97%となり、目標を3ポイント下回った。

本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、体験学習や部活動見学は実施できなかったが、例年行っている小中連絡会は実施できた。次年度は連携を密にし、小中の取組の精査をして、有意義な交流をめざす。

大阪市立東中学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | |
|---------------------|------------------------|
| 評価基準 A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】 | |
| <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 令和2年度小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を95%以上にする。 令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させる。 令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童（生徒）の割合を前年度より減少させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和2年度学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えるなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を85%以上にする。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を75%以上にする。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路懇談などで、気軽に相談しやすい先生がいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「読書の習慣が身につき、本を読むことが好きになった」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を75%以上にする。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通 | B |

じて、学校教育活動に参加しようとしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える保護者の割合を70%以上にする。また、令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取り組みを行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を85%以上にする。

9. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える保護者の割合を95%以上にする。
10. 令和2年度学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取り組みに参加している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。
11. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を100%以上にする。
12. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さ感じることができた」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。
13. 令和2年度性教育事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (教務部) | 進捗状況 |
|--|------|
| 取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】(学-7) 教科授業だけでなく様々な活動の中で、コミュニケーション活動を取り入れた内容を実施する。また、読書活動を充実させるため、朝読書の習慣化、図書室を利用した授業を実施する。言語力の育成に向け、表現活動や「学び合い」の機会を増やす。 | |
| 指標 <ul style="list-style-type: none">・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「読書の習慣がつき、本を読むことが好きになった」と答える生徒の割合を全体の75%以上をめざす。・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「自分の意見をまとめたり、発表する機会がよくある」と答える生徒の割合を昨年度と同等以上にする。 | B |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 【年度目標】について <ul style="list-style-type: none">・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「読書の習慣がつき、本を読むことが好きになった」と答える生徒の割合は全体の77%で目標を2ポイント上回った。 【取組内容】について <ul style="list-style-type: none">・本年度、特に後期は、朝読書を全学年で実施し、図書室を利用した授業も行ってきた。その結果、前期は新型コロナウィルス感染症の拡大防止のための休校が続き、「読書の習慣がつき、本を読むことが好きになった」と答える生徒の割合は69%であったが、後期は77%と目標を上回った。 | |

- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「自分の意見をまとめたり、発表する機会がよくある」と答える生徒の割合は、68%と昨年と同等であった。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・読書習慣については、今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、学年や教科で図書室利用が制限されたが、次年度は図書館利用を含め、読書習慣の取り組みをさらに進めていく。また、次年度も、多くの場面で言語活動を取り入れた授業や特別活動を行い、思考力・判断力・表現力を高める取り組みを展開する。

取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】(学-12)

体験的な学習や表現・発表する取り組みを設定し、また、実験・実習を積極的に取り入れるなど生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習を実施する。毎年、鑑賞行事を取り入れ、3年間で演劇・古典芸能・音楽を鑑賞できるよう計画して実施する。

指標

- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「実験、観察、実習などの授業に、興味を持って参加している」と答える生徒の割合を全体の70%以上にする。
- ・今年度は演劇を実施する。

A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、制限された部分が多くなったが、DVDによる鑑賞行事、などを工夫しながら実施することができた。その結果、令和2年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合は89%と目標を9ポイント上回った。

【取組内容】について

- ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、1年生泊行事、2年生職場体験などが実施できなかった。
- ・授業においては、実験・実習など、興味関心をもって生徒が自主的・自発的に学習できる工夫を行ってきた。結果、令和2年度の学校生活アンケートにおいて「実験、観察、実習などの授業に、興味を持って参加している」と答える生徒の割合は91%で目標を21ポイント上回った。

次年度への改善点

- ・次年度は、本年度工夫された部分も生かしながら、体験的で生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な活動を、授業や校外学習、泊行事などに取り入れていく。

取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】(学-9)

学校ホームページなどを活用し、東中学校の教育内容を広く保護者や地域に理解してもらう。

A

指標

- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、

| | |
|--|--|
| 当てはまる)」と答える保護者の割合を95%以上にする。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>【年度目標】【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年だよりは毎月、各学年で発行している。学校ホームページも生徒や学校の様子がよくわかるよう可能な限り更新をおこなった。令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校の様子は、ホームページや学年だよりなどでよく知ることができる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える保護者の割合は98%で、昨年度を3ポイント上回った。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目標は達成しているが、次年度も、より東中学校の教育内容を理解してもらうために、学年だよりの継続と、ホームページの更新に努める。 | |
| 取組内容④【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】(学-10) <p>地域の施設及び人材活用を積極的に行い、それらを取り入れた学習活動を充実する。</p> | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校元気アップ地域本部事業において、令和2年度はPTAや地域・学生等のボランティアの数を20名以上集める。 ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取り組みに参加している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「図書館開館や学習会など学校元気アップの取り組みに参加している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は33%で目標を47ポイント下回った。 | |
| <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の拡大防止による休校や、図書館開館、学習会の実施には制限があったこともあり、図書と学習会で、延べ図書館利用者は3625名と昨年(5310名)より減少した。また、図書館の利用や学習会を通して、学校元気アップ事業に参加しているという生徒の意識が低く、アンケート結果は33%と目標を下回った。 ・図書館については、蔵書確認作業(本の棚卸)にも携わった。 ・本年度、学校元気アップの広報紙の紙面をリニューアルし、また、1年生の図書館開きの授業や学年行事「書初め大会」のお手伝いも行うことができた。 ・本年度の学校元気アップ地域本部事業においては、12月までにPTAや地域等のボランティアを18名集めることができた。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、利用や参加者・ボランティアがさらに増えるよう活動情報を積極的に発信していく。 | |
| <p style="text-align: right;">年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (生活指導部)</p> | |
| 進捗状況 | |
| 取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(市-4) <ul style="list-style-type: none"> ・主任会、生活指導部会で不登校生については、その対応策について常に議論し具体的な対応策のもとに学年、生活指導部の連携を軸とした組織的対応を心がける。また「不 | |
| B | |

登校対策委員会」をさらに充実させる。

- ・学年ごとに迅速かつ正確に実態把握を行うとともに、情報交換を充実させる。
生徒指導主事、学年主任、担任など、常に複数の教職員で実態に沿った課題の解決に向け協議し、決定した内容を確実に遂行する。
- ・課題の解決に向けて、関係諸機関とも積極的に連携をする。
- ・諸会議における不登校生の報告を行う際に、現状のみではなく、現状と対応状況をあわせて報告するよう意識をする。

指標

- ・日々の学年打ち合わせ、または主任会、生活指導部会において、不登校生徒の状況について報告し具体的な支援、対応策を明確に示し対応にあたる。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「不登校生徒への対応については、家庭訪問や定期的な連絡で家庭と連携しながら改善をめざしている。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合を90%以上にする。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「不登校生徒について、教職員が協力して組織的に指導にあたれるような体制の充実に努めている。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合を90%以上にする。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「充実した学校生活を過ごせている。」の項目について、「そう思う（ややそう思う）」と答える生徒の割合を85%以上にする。
- ・令和2年度末の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和2年度の校内調査において、新たに不登校になる生徒の割合を前年度より減少させることはできていないが、不登校生に対する家庭訪問の実施や情報交換の充実、関係諸機関との連携は深まっており、各学年、各学級において不登校生徒に対する支援、および家庭との連携は向上している。

【取組内容】について

- ・令和2年度後期学校生活アンケート結果では「不登校生徒への対応については、家庭訪問や定期的な連絡で家庭と連携しながら改善をめざしている。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合が令和元年度後期の97%と同値となった。また、年度目標の90%を7ポイント上回った。
- ・「不登校生徒について、教職員が協力して組織的に指導にあたれるような体制の充実に努めている。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合が令和元年度後期の93%から(+4)となり97%となった。また、年度目標である90%以上を7ポイント上回った。
- ・「充実した学校生活を過ごせている。」の項目について、「そう思う（ややそう思う）」と答える生徒の割合が令和元年度後期の89%から(+2)となり91%になった。また、年度目標の85%についても6ポイント上回っている。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・増加傾向にある不登校生について、個々のケースを分析し必要があれば積極的に関係諸機関と連携をしながら、寄り添った指導を継続して展開できるような環境の構築をめざす。
- ・教職員対象の不登校についての学校生活アンケート結果が向上したことを受け、今後も更

に「孤立感」を感じさせない組織的な対応の充実に努めたい。

取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(市-2)

- ・学校生活を通じて、日常的に全教職員で集団規律の確立を心がけ、あいさつ・適切な言葉遣い・服装・頭髪等の生徒の規範意識を育む指導を継続的に取り組む。

指標

- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「教職員は共通理解を図り、きまりを守り、節度ある生活態度を身につけさせる生徒指導を行っている。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合を90%以上にする。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「挨拶指導や服装・頭髪指導を行うなど、生徒の規範意識の向上をめざしている。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合を90%以上にする
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「登校指導に少しでも参加するよう努力している。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合を90%以上にする。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和2年度後期学校生活アンケート結果では「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合が令和元年度後期の97%と同値となった。また、年度目標の95%についても2ポイント上回っている。

【取組内容】について

- ・令和2年度後期学校生活アンケート結果では「教職員は共通理解を図り、きまりを守り、節度ある生活態度を身につけさせる生徒指導を行っている。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合が令和元年度後期より(-10)となり90%となった。年度目標の90%以上についても同値となっている。
- ・「あいさつ指導や服装・頭髪指導を行うなど、生徒の規範意識の向上をめざしている。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合が令和元年後期より(-3)となり97%となった。また、年度目標の90%以上にするについては7ポイント上回っている。
- ・「登校指導に少しでも参加するよう努力している。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合が令和元年度後期の93%から(+4)となり97%となった。また、年度目標の90%以上を7ポイント上回っている。
- ・「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合が令和元年度後期の97%と同値となった。また、年度目標の95%についても2ポイント上回っている。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・毎年、全項目で肯定的な割合が非常に高い結果となっているが、今年度は「教職員は共通理解を図り、きまりを守り、節度ある生活態度を身につけさせる生徒指導を行っている。」の項目について、「よく当てはまる（ほぼ当てはまる）」と答える教職員の割合が令和元年度後期より(-10)となり90%となった。-10ポイントとなった原因は新型コロナウイルス感染症感染拡

大予防対策のため年度初めが休校となり、2か月遅れの新年度開始となったことが、教職員間のコミュニケーションの減少に繋がったことも原因の一つであると分析をする。改めて、積極的なコミュニケーションを意識することを軸に、合意形成の上に共通理解と共通実践を尊重した生活指導の推進に努めたい。本校では、これまで生活指導においても非常に高い割合で共通理解が保持された中で指導が継続的に行われていたことを再確認し、令和3年度は更に充実した生活指導を展開し100%をめざしていきたい。

取組内容③【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(市-1・3 学-5)

- ・日常の生徒観察と定期的に実態把握アンケートを実施し、いじめの早期発見に努める。
- ・アンケートを形骸化させないことを心がけ、アンケート結果は全校集会等で生徒に公表し、生徒が相談しやすい環境の構築を図る。
- ・道徳教育を通じて内面的な指導を積極的に行う。

指標

- ・教育相談を年2回以上実施する。
- ・東中学校「いじめアンケート」に基づく道徳教育を実施する。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」の項目について、「そう思う（ややそう思う）」と答える生徒の割合を100%にする。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる。」の項目について、「そう思う（ややそう思う）」と答える生徒の割合を95%以上にする。
- ・令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ・令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害生徒数を前年度より減少させる。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にするについては、今年度も100%を達成することを意識して取り組みを継続している。100%を達成する可能性は非常に高い。
- ・令和2年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童（生徒）数を前年度より減少させるについても、この項目に該当する事象は発生していない。
- ・令和2年度後期学校生活アンケート結果では、「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合が令和元年度後期の95%と同値となった。また、年度目標の90%以上についても5ポイント上回っている。

【取組内容】について

- ・教育相談を年2回以上実施するについて、教育相談の中で重大事案に繋がる相談もあり、改めて教育相談の重要性を認識することができた。
- ・東中学校「いじめアンケート」に基づく道徳教育については計画的に実施がなされている。
- ・令和2年度後期学校生活アンケート結果では、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」の項目について、「そう思う（ややそう思う）」と答える生徒の割合が令和元年度後期学校生活アンケートの96%から(+1)となり97%になった。年度目標の100%には

| |
|---|
| <p>3 ポイントマイナスではあるが、生徒会活動を中心とした生徒たちの主体的取り組みの成果が出てきている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度後期学校生活アンケート結果では、「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合が令和元年度後期の95%と同値となった。また、年度目標の90%以上についても5ポイント上回っている。 |
|---|

次年度への改善点

【目標設定】について

- 今年度も、生徒会役員を中心に、「いじめについて考える日」を実施することができた。今後も生徒が主体的にいじめについて考え方行動する取り組みを展開する。
- 本校は「いじめ事案を予防する環境づくり」については充実した取り組みを実践できていると感じる。未だに「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う。」に対して肯定的な回答をする生徒が100%にはなっていないが、取り組みの成果を感じることはできるようになった。その成果を大切に、今後も教育活動にあたりたい。その一環としての教育相談については、更なる充実に努めたい。

取組内容④【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(学-2)

- 所轄警察署による交通安全教室を年1回以上実施する。
- 全国的に年2回実施される「春・秋の交通安全週間」の前後、または各学期末に全校集会等で交通安全についての講話をを行い、交通安全や交通ルールを順守する態度を養う。

A

指標

- 令和2年度の学校生活アンケートにおける「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えたりするなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を75%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- 1学期終業式に東警察署より講師を招き交通安全・防犯教室を実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大予防対策により終業式を放送で実施したため、プリントを配布して啓発指導を行った。また、今年度は特別に12月7日に1・2年生を対象に防犯教室を実施した。
- 全校集会では、生徒指導主事より校区内での交通事故などについて講話がなされている。また定期的に校区内巡回を実施するなど日常的に交通安全の確保に努めている。
- 長期休暇明けには「長期休暇を振り返ろう」という被害調査を実施し、生徒の学校外での生活についても把握に努めている。

【取組内容】について

- 令和2年度後期学校生活アンケート結果では「交通ルールを守ったり外出の仕方を考えたりするなど、犯罪や事故などに巻き込まれないよう安全を意識して生活している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合が令和元年度後期の93%から(+2)となり95%となった。年度目標である85%以上も10ポイント上回ることができた。

次年度への改善点

| | |
|---|------|
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年後期学校生活アンケート結果では、目標を大きく上回っているが、交通事故や犯罪、事故は予測が不可能であるため継続的に講話などを通して、生徒たちに交通ルールやマナーを順守する意識をさせ未然防止を図る必要がある。今後も全校集会での講話、定期的な巡視、リーフレットの配布などの啓発活動に努めたい。 | |
| <p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (健康教育部)</p> | 進捗状況 |
| <p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(学-3) 防災に関する知識を深め、予防意識を高める。</p> | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を75%以上にする。 避難訓練を年2回実施する。1年生では防災に関する資料等を使い、災害に対して備える意識を生徒に持たせる。 火災に伴う避難訓練では、点呼終了までにかかる時間を、4分30秒以内におさめる。 地震に伴う避難訓練では、点呼終了までにかかる時間を、グラウンドへの避難は5分50秒以内、階上への避難は4分30秒以内におさめる。 | B |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活アンケートにおける「災害に対して意識的に備えている」の項目に肯定的に答えた生徒の割合77%であり、昨年度に比べて1ポイントマイナスになったが、指標に対しては達成できた。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 2回目の避難訓練は火災に伴う訓練で、消防署の立ち合いの下実施した。新型コロナウイルス対策で1回目と同様、間隔を開けて歩いて行動し避難経路の確認を目的に行った。避難に要した時間は4分52秒かかったが、消防署の方からは、慌てず安全に避難が出来ていたと評価をいただいた。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度の消防署の方より指導いただいた事項は、今年度の避難訓練に取り入れて実施できた。今年度は、初期消火活動について次年度への課題をいただいた。 | |
| <p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】(市-2) 日常の清掃活動を充実させ、自ら進んで校内美化に取り組む態度を養う。</p> | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 月1回美化点検を行い、取り組んだ結果を美化委員に確認させる。 学期に1回清掃用具点検活動を美化委員を中心に行う。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「美化活動(清掃活動)に、積極的に取り組んでいる。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「清掃活動は行き届いている」の項目につ | B |

| | |
|---|------|
| いて、肯定的に答える教職員の割合を、80%以上にする。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 【年度目標】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートにおける「清掃活動は行き届いている」に肯定的にこたえる教職員の割合は 97%であり、昨年度と同じであった。 | |
| 【取組内容】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートにおける「美化活動（清掃活動）に積極的に取り組んでいる。」に肯定的に答えた生徒の割合は、94%で昨年度より 1 ポイント下がったが、指標に対しては達成できた。 ・美化点検は美化委員会で定期的に行っている。清掃用具点検も行い、各清掃分担場所の清掃用具の点検、交換、必要数の補充を行った。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 【目標設定】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も日常の清掃活動や美化活動を通して、生徒が積極的に活動できるように取り組んでいく。 | |
| 取組内容③【施策 2 道徳心・社会性の育成】(学-13) 性教育の系統立てた指導を実施する。 | B |
| 指標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・性について考え、自己の生き方を考える意識の向上をめざすために、各学年 3~4 時間の授業を実施する。 ・取組後の事後アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を 90%以上にする。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 【年度目標】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートにおける「性教育で大切なことを学んだと思う。」の項目に肯定的に答えた生徒の割合は 92%であり、昨年度より 1%上回った。 | |
| 【取組内容】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・3 年生における性教育は、今年度新型コロナウイルスの関係で保健体育科の授業の中で実施することになった。 ・2 年生では、交際について性被害にあわないといためにという内容で実施した。 ・1 年生では、3 学期に生命誕生についての内容で実施した。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 【目標設定】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も生徒の実態に合わせた性教育を計画し実施していく。 | |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (人権道徳委員会) | 進捗状況 |
| 取組内容①【施策 2 道徳心・社会性の育成】(学-1 学-5) 道徳の年間指導計画を作成し、授業時数の確保に努める。また、各学年で道徳の実践記録を作成し、生徒の課題に応じて適切に授業内容を充実させる。 | B |
| 指標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・道徳の授業時数が、年間で 35 時間を越えるように計画し、実践する。 | |

- ・各学年で道徳教科書の読み物教材を漏れなく行い、ワークシート・道徳ノートを使用し、適切な文章表記による評価を行う。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「道徳教育は、年間指導計画に基づき、継続的に行っている。」と答える教職員の割合を95%以上にする。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「命の大切さや社会のルールについて学んでいる。」と答える生徒の割合を95%以上にする。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している。」と答える生徒の割合を95%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している。」と答える生徒の割合は93%で指標より2ポイント下回った。

【取組内容】について

- ・新型コロナウィルス感染症に関わる休校措置の際に、家庭学習課題として教科書の道徳教材を読ませ、ワークシートに取り組ませている。当初の年間計画からは変更があるが、各学年で道徳の内容項目をすべて履修するように修正・実施した。
- ・学校生活アンケートにおける「道徳教育は、年間指導計画に基づき、継続的に行っている。」と答える教職員の割合は100%であった。
- ・学校生活アンケートにおける「命の大切さや社会のルールについて学んでいる。」と答える生徒の割合は97%であった。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・「より良い人間関係を築くために努力している。」と答える生徒の割合が目標に到達していない。来年度は達成できるように、教材研究や発問内容の工夫などを行い、主として人との関わりに関する内容項目の授業の質を向上させていきたい。

取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】(学ー1 学ー5)

豊かな人権感覚の育成をめざし、人権学習の指導計画を作成する。前後期に集中実践を行い、授業展開を工夫して内容の充実を図る。

指標

- ・人権学習の年間指導計画を作成し、前後期に各学年で2回集中実践を行う。
- ・体験学習や外部講師の招聘、視聴覚教材の活用等を行う。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「人権教育の推進に努め、生徒が命の尊さや社会のルールについて学ぶ教育活動を推進している。」と答える教職員の割合を95%以上にする。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる。」と答える生徒の割合を95%以上にする。

A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・学校生活アンケートにおいて「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる。」と答える生徒の割合は95%であった。

【取組内容】について

- ・前期の集中実践として平和学習を変更し、新型コロナウィルス感染症に関わる差別・いじめの

| | |
|--|------|
| <p>人権学習を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウィルス感染症感染防止の観点から体験学習・外部講師の招聘は難しかったが、視聴覚教材の活用は各学年の後期集中実践で行った。また1年生は外部講師を招いて手話講習会を2月に実施する予定である。 ・学校生活アンケートにおいて「人権教育の推進に努め、生徒が命の尊さや社会のルールについて学ぶ教育活動を推進している。」と答える教職員の割合は97%であった。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 【目標設定】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・各アンケート項目は現時点で目標を上回っている。来年度も新型コロナウィルス感染症の感染拡大状況を考えながら、視聴覚教材を効果的に利用したい。 ・来年度は人権実践交流会の発表にあたるので、その内容も含めて前後期の集中実践について改善を図りたい。 | |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (特別支援教育委員会) | 進捗状況 |
| 取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】(学-11) 「個別の教育支援計画」の作成にあたっては、保護者との面談を行い、個々の障がいの状態等を踏まえたうえで計画を立てる。また、合理的配慮の観点から、特別支援学級に在籍する生徒の困っていること、求めていることを知り、支援する。 | B |
| 指標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、保護者と面談する。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 【取組内容】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「個別の教育支援計画」の作成にあたっては、小学校からの引継ぎや中学校生活の様子をもとに、計画を立て、1学期末の懇談時に保護者へ渡した。修正点があれば、随時修正した。計画に基づき、支援を行っている。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 【目標設定】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・家庭と学校が協力して生徒の支援を進めるため、今後も日々の学校生活や学校行事での生徒の様子を保護者に伝えていく。また、保護者の思いや願いも「個別の教育支援計画」に反映できるように、家庭との連携を行っていく。 | |
| 取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】(学-11) 「個別の指導計画」について、学期ごとに目標を定め、生徒の自立に向けて支援する。 | |
| 指標 | B |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学期に1回、目標の達成状況について保護者とともに評価を行う。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 【取組内容】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学期ごとに短期目標の達成状況を本人、保護者と確認した。達成状況をもとに短期目標を立て、支援することができた。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 【目標設定】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・目標の達成状況や本人、保護者との話し合いを「個別の指導計画」に反映させ、今後の支援に役立てていく。 | |
| 取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】(学-11) | |

| | |
|---|-------------|
| <p>特別支援教育委員会において、通常学級担任・特別支援学級担任や教務主任・生徒指導主事も含めて生徒の情報を共有する。</p> | A |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2か月に1回、特別支援教育委員会を実施し、生徒の状況について情報を交換する。 ・令和元年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を95%以上にする。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「特別支援学級に在籍する生徒について、通常学級の一員として他の生徒と共に活動できるよう配慮している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合は前期97%、後期は100%であった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃より通常学級担任との情報共有に努めている。また、2か月に1回の特別支援教育委員会や学年会などでも、情報共有に努めている。 | |
| 今後への改善点 | |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も特別支援学級在籍生徒が、学級や学年の一員として、充実した学校生活を送れるように支援していく。 | |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 （進路） | 進捗状況 |
| <p>取組内容①【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】（進路 学-6）</p> <p>3年間を見通した指導計画を立て、生徒自らが個性を伸ばし、自己実現をめざしてその生き方を考え、将来に対する目的意識をもって、主体的に進路選択ができるようになる。</p> | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「進路決定に際しては、自分の気持ちを大切にして、主体的に考えている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。 | B |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進路決定に際しては、自分の気持ちを大切にして、主体的に考えている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合は、昨年度と同じ88%で、目標値の90%を少し下回った。しかしながら、将来の生き方を考える土壤はできつつあるように思う。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『自らの手で納得のいく進路を獲得する』ということを常に念頭に置き、進路通信や学年集会での呼びかけを中心に、情報提供をしてきた。特に、進路獲得を目の前にした3年生については、学年の先生を中心に声をかけ、「自分の進路は自分で決める」よう、何度も促してきた。本年度は新型コロナウィルス感染症の影響により、生徒への進路情報が十分にいきわたらないことが懸念されたが、大きな影響はなさそうである。 | |
| 次年度への改善点 | |

【目標設定】について

- ・1年生では「職業講話」、2年生では「職場体験」（本年度は代替の進路学習を予定している）の取り組みだけで進路指導を終えてしまうのではなく、普段からの呼び掛けや啓発活動を大切にして、継続的に『自らの手で納得のいく進路を獲得する』ことのできる進路指導を行っていきたい。

取組内容②【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】（進路 学-4）

進路についての理解を深めさせるために、体験学習・学校説明会への参加案内発行や進路説明会開催などによる進路情報の提供、進路資料を活用した学級活動や進路相談を行う。

指標

- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「提供された進路の情報をきちんと理解できている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「教育相談や進路相談などで気軽に相談しやすい先生がいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。

A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・「教育相談や進路相談などで気軽に相談しやすい先生がいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合は、昨年度より1ポイント増加して80%となり、目標を達成した。新型コロナウイルス感染症の影響により、生徒との相談活動が十分でないことで、前期は目標値を大きく下回ったが、その後の教職員の普段からの声掛けや生徒の話を聞く姿勢が大きく評価された結果だと思われる。

【取組内容】について

- ・「提供された進路の情報をきちんと理解できている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合は、昨年度より3ポイント増加して88%となり、目標値の80%を大きく上回った。進路通信の発行や学年集会での呼び掛けによる情報提供をこまめに行ってきました。また、体験授業や学校説明会への参加については、大量に送られてくる案内のほとんどを生徒に提示して、参加を呼び掛け、それを促してきた。1・2年生が参加しても良いものについても、1・2年生に呼び掛けてきた。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・各高等学校等で行われる進路説明会等を活用して、進路情報の収集及び整理をさらに図っていきたい。そして、進路指導委員会を中心に情報の共有と組織的な解析を進めながら、全教職員が共通理解を図り、生徒・保護者に対してきめ細やかな進路指導を行えるようにしていきたい。特に、大阪府公立高校入学者選抜方法の変更に伴い、1年生での取り組みを強化していくたい。

取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】（進路 学-6）

1年生での「職業講話」、2年生での「職場体験」、3年生での「プレハイスクールセミナー（出前授業）」という系統的なキャリア教育を通じて、将来の進路や生き方について考えさせ、社会の一員としての在り方や興味・関心に基づく勤労観・職業観を育成する。

B

指標

- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「将来の進路や生き方について考えたことがある」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・「将来の進路や生き方について考えたことがある」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は、昨年度より3ポイント減少して、88%となり、目標値の95%を大きく下回った。しかしながら、3年生に関しては、新型コロナウイルス感染症の影響により、本格的なスタートが遅れたものの、2学期に入ってからは希望の進路先への質問をしてくる等、少しづつ進路決定への興味関心が高まっていき、95%で目標を達成した。

【取組内容】について

- ・3年生の「プレハイスクールセミナー(出前授業)」は予定通り7月に実施ができ、それぞれの進路先を決定していくまでの指標となる貴重な体験となった。1年生での「職業講話」は2月に実施予定である。2年生での「職場体験」は、残念ながら新型コロナウイルス感染症の影響により、中止となった。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・1年生の割合については、学年での進路の取り組み(職業講話)がまだ行われていないこともあり、80%にとどまっている。将来の進路や生き方について興味を持たせることができるような職業講話にしていきたい。2年生については91%で、2月以降に進路指導主事講話を含む進路学習を予定している。3年生については、これから本格化する進路相談・進路懇談について、学年間の連携を密にし、その中身を充実させることで、将来の進路や生き方を十分に考えさせていきたい。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (第1学年)

進捗
状況

取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】(市-2)

集団生活における基本的な生活習慣を身につけ、ルールを守り、正しい判断と行動ができる態度を育成する。

指標

- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「あいさつなどを積極的に行っている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和2年度の後期学校生活アンケートにおいて、「学校の決まり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は96%(前期99%)で、年度目標及び取り組み内容の指標を1ポイント上回っている。

【取組内容】について

- ・令和2年度の後期学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合は98%（前期96%）で、取り組み内容の指標を8ポイント上回っている。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・現在、班活動などの取り組み（各係の役割や仕事内容の明確化や変更など）の見直しを進めている。それにより、生徒一人ひとりが自分の役割を再確認することで、しっかりと役割を果たそうとする意欲の向上がみられる。さらに見直しを進めていき、各係一人ひとりの生徒たちが達成感や役割に対しての責任感や誇りを感じられるようにしたい。

取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】((市-1 学-1))

中学校の一員としての自覚を持たせ、互いの個性を尊重し、信頼しあえる人間関係を育成する。

指標

- ・令和2年度の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力をしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】・【取組内容】について

- ・令和2年度の前後期の校内調査において、いじめ事象は5件（その内、後期は2件）あった。前期発生の3件については、100%解消することができた。後期発生の2件については発覚次第指導・家庭連絡等を行っている。現在も解消に向けて継続指導中である。
- ・令和2年度の後期学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力をしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合は92%（前期91%）で、年度目標及び取り組み内容の指標を3ポイント下回っている。学校生活アンケートの結果に変化は認められなかったが、行事や日常、集会などを通して、相手の気持ちを考えた発言や行動が増加し、人間関係のトラブルによる指導数は減少している。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・今後も学年目標である「十人十色」一人ひとりがメインカラーという他を認め、他と協力する気持ちを行事や日常の生活、さらには道徳科授業や集会などを通して、周囲のことを考えながら行動ができる心を育んできたい。それらを通して次年度の学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力をしている」の項目について、自信をもって肯定的に答えることができるようにしていきたい。

取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】(学-6)

一人ひとりが目標を持ち、すべての授業・班活動・係活動・委員会活動・学年集会を通じ、前向きな生活態度・学習態度を育成する。

指標

- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「将来の進路や生き方について考えたことがある」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。

B

- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「自ら学ぶように努力している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を80%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】・【取組内容】について

- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて、「将来の進路や生き方について考えたことがある」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は80%(前期81%)で、年度目標及び取り組み内容の指標を15%下回る結果となった。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて、「自ら学ぶように努力している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は85%(前期85%)で、年度目標及び取り組み内容の指標を5%上回る結果となった。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・2月中旬から実施する予定の進路学習などの取り組みを通して、将来のことを考える機会を提供することで、自ら学ぶ意欲を向上させたい。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (第2学年)

進捗
状況

取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】(市-1 学-5)

道徳授業、学年集会、日々の学活等の様々な体験学習を通じ、素直な気持ちを育むと共に、他を思いやる心を育てる。

指標

- ・令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和2年度の前後期の校内調査において、いじめ事象は6件(その内、後期は3件)あった。前期発生の3件、後期発生の2件については、100%解消することができた。1件は現在も解消に向けて継続指導中である。

【取組内容】について

- ・令和2年度の後期学校生活アンケートにおいて、「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は96%(前期は96%)で、昨年度より2ポイント上回り、年度目標及び取り組み内容の指標を1ポイント上回った。行事や班活動などを通してよい人間関係が構築されてきている。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・道徳授業や集会を通じて、周囲の事を考え行動できる素直な心を育んでいきたい。生徒個々の成長とともに、集団としての「質」の向上に努めていく。

取組内容②【施策2 道徳心・社会性の育成】(市-2)

ルールや時間を守り、元気よくあいさつのできる前向きな生活態度を持つ集団を育成する。

B

指標

- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて、「学校の決まり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を92%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和2年度の後期学校生活アンケートにおいて、「学校の決まり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる・(どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合は97%（前期は98%）で昨年度より2ポイント上回り、年度目標及び取り組み内容の指標を2ポイント上回った。

【取組内容】について

- ・令和2年度の後期学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば当てはまる)」と答える生徒の割合は97%（前期は98%）で、昨年度と同値となり、年度目標及び取り組み内容の指標を5ポイント上回った。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・昨年よりも時間やルールを守る意識は高くなってきたので、継続指導をしていく。現状に満足せず、最高学年として更に高いところをめざしていきたい。

取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】(学-5)

班活動・委員会活動などを通じ、よりよい人間関係を築き、自主的・実践的な態度を育成する。

指標

- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「より良い人間関係を築くために努力している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を95%以上にする。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「自分が所属する集団における自分の役割を理解し、それを果たすことで集団に貢献している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を90%以上にする。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和2年度の後期学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力している」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は94%（前期は94%）で、昨年度より3ポイント上回ったが、年度目標及び取り組み内容の指標を1ポイント下回った。前期と比べ集団での活動は多く取れるようになったものの、制限があり多くの活動ができなかつたことが原因と考える。

【取組内容】について

- ・令和2年度の後期学校生活アンケートにおいて、「自分が所属する集団における自分の役割を理解し、それを果たすことで集団に貢献している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合は94%（前期は92%）で、昨年度より1ポイ

| | |
|--|------|
| ント上回り、年度目標及び取り組み内容の指標を4ポイント上回った。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 【目標設定】について | |
| ・日々の学校生活を向上するとともに、3・4年生全体が最高学年としての自覚を持ち、学校の顔として活躍できるよう努めたい。学年目標である「ホップステップジャンプ」の最後のジャンプができるよう指導していく。そのなかで仲間を大事にできる集団育成をしていく。 | 進捗状況 |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標（第3学年） | 進捗状況 |
| 取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】（市-2） 基本的生活習慣を身につけさせ、礼儀と社会的規範意識の向上を図り、集団の一員として学校生活の質をさらに高めていこうとする前向きな態度を育成する。 | A |
| 指標 ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて、「学校の決まり・規則を守っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を95%以上にする。 ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 【年度目標】について | |
| ・令和2年度の後期学校生活アンケートにおいて、「学校の決まり・規則を守っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合は99%で、年度目標及び取り組み内容の指標を上回っている。進路選択を控える3年生の後期ということで、正しい服装をすること、規則を守って行動することの大切さを意識して行動することができた成果と考える。 | |
| 【取組内容】について | |
| ・令和2年度の後期学校生活アンケートにおいて、「あいさつなどを積極的に行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合は93%で、目標を3ポイント上回った。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 【目標設定】について | |
| ・集団行動を通して声掛けを行い、高い意識のもとで行動できる生徒が増えた。 | |
| 取組内容② 【施策2 道徳心・社会性の育成】（学-1） 他を思いやる心を育てるとともに、よりよい人間関係を築くための自主的・実践的な態度を育成する。 | B |
| 指標 ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「より良い人間関係を築くために努力している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を95%以上にする。 ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「自分が所属する集団における自分の役割を理解し、それを果たすことで集団に貢献している。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を95%以上にする。 | |

| | |
|--|--|
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の後期学校生活アンケートにおいて、「より良い人間関係を築くために努力している」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合は92%で目標を下回ったが、前期の90%に比べると若干上がった。 | |
| <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の後期学校生活アンケートにおいて、「自分が所属する集団における自分の役割を理解し、それを果たすことで集団に貢献している。」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合は92%で目標を下回ったが、前期の91%に比べると若干上がった。 <p>修学旅行の取り組みや活動（班活動・係活動・委員会活動）を通して自分の役割を理解し自主的に行動できる生徒が増えた。</p> | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も卒業に向けて、それぞれ一人ひとりが自分の役割を全うし、達成感を感じる場面を増やしていきたい。中学校で学んだことがこの先に少しでも役立つように指導をつづけていきたい。 | |
| <p>取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】(市-1 学-5)</p> <p>道徳授業や学年集会班活動・係活動・委員会活動を通じ、前向きな生活態度・学習態度を育成する。</p> | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を95%以上にする。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合を95%以上にする。 | |
| A | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度後期の校内調査では、1件発覚したが解決に至っている。 | |
| <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の後期学校生活アンケートにおいて、「豊かな心や人権の大切さについて学んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童(生徒)の割合は97%で目標を上回った。道徳授業・集団行動・班活動・係活動・委員会活動・行事をとおして、助け合うことの大切さ、思いやる心の尊さを学び、周りのことを考えて行動できるようになった。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学年の目標のスローガンである「3C change chance challenge」の精神を持って、最後の大きな行事である卒業式まで全力で送らせたい。 | |
| <p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (校長経営戦略支援予算基本)</p> | |
| 進捗状況 | |
| <p>取組内容①【施策2 道徳心・社会性の育成】(学-12)</p> <p>華道や茶道についての体験学習を通じて、歴史的建造物や史跡の多い校区における伝統</p> | |
| B | |

文化とその良さを知り、将来の地域人材として意識付けをするとともに伝統を守ることの重要性を認識させる。

指標

- ・地域や PTA の方々をゲストティーチャーとして招き、華道体験及び茶道体験を実施する。また、国語の和歌や俳句・川柳などに係る授業、音楽での和楽器の演奏や鑑賞、美術での鑑賞などで、日本や地域の伝統文化について考える授業実践を行う。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・2 学期の取組後に実施した後期学校生活アンケートにおいて、「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合は 89%となり、目標を達成することができた。

【取組内容】について

- ・今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のためゲストティーチャーを招いての華道・茶道体験は中止とした。しかしながら、地域ボランティアの方々による玄関ホールへの「生け花」を毎週展示いただくことで、日々、日本の伝統文化に触れる機会を得ている。また、その「生け花」を「東中百景」として学校ホームページへ掲載している。また、現在、音楽科では音楽鑑賞に取り組んでおり、今後も、音楽科での箏曲などの取組、美術科での墨絵の制作なども予定しており、日本や地域の伝統文化に触れる取組を継続する。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・体験学習については生徒による主体的な取組とするため、事前・事後の学習について更なる充実を図る。

取組内容②【施策 2 道徳心・社会性の育成】(学-12)

文化発表会の芸術鑑賞において観劇を実施し、表現の豊かさや美しさ、すばらしさを感じることで感性や情操を高める。

B

指標

- ・令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」の質問に対して、肯定的に答える生徒の割合を 80%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・後期学校生活アンケートにおける「鑑賞行事や体験学習を通じて、芸術や伝統文化のすばらしさや大切さを感じることができた」の項目について、肯定的に答える生徒の割合は 89%であり、目標を達成することができた。

【取組内容】について

- ・コロナ禍のため、本年度は芸術鑑賞会を文化発表会のスケジュール内に組み込んで実施した。そのため、教室において DVD を鑑賞する形式を採用し、表現の豊かさや素晴らしさを感じることができる機会を確保することができた。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・本年度のDVD を用いた芸術鑑賞会のあり方については、コロナ禍、また、今後の生徒数増に伴う本校の課題を改善できる一つの実践方法となった。芸術鑑賞については事後の効果検証を着実に行い、次年度以降の実施の有無や実施内容の選定に活用する。

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 （管理職） | 進捗状況 |
|---|------|
| 取組内容①【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】（管理職 学-8） 各種行事やPTA活動等を通じて開かれた学校づくりを推進し、学校・家庭・地域が相互に協力する体制を構築する。 | |
| 指標 <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える保護者の割合を70%以上にする。また、令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取組を行っている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を85%以上にする。 | B |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 後期学校生活アンケートにおける「参観等の各種行事やPTA活動などを通じて、学校教育活動に参加しようとしている」の項目について、肯定的に答える保護者の割合は79%であり、指標を9ポイント上回ったが、昨年度を3ポイント下回った。しかし、このアンケート結果からは、コロナ禍において参観の機会が取れない中でも、本校の教育活動に関心を寄せ、参加しようとしていただいていることがわかる。また、後期学校生活アンケートにおける「学校行事やPTA活動、部活動等の場面で、保護者や地域に関わる取り組みを行っている」の項目について、肯定的に答える教職員の割合は97%であった。保護者・地域と関わろうとする教員の姿勢が、結果として保護者の学校教育活動への関わりにつながっていると考えられる。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 【目標設定】について <ul style="list-style-type: none"> 上記アンケート結果の通り、すべての教職員が保護者・地域との関わりを大切にする姿勢により、学校・家庭・地域の協力体制が築かれている。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、学校行事やPTA活動に制限がある状況下ではあったが、保護者メールや学校ホームページ、各種通信等による情報発信に取り組み、創意工夫をした開かれた学校づくりを推進し、学校・家庭・地域による、より強固な協力体制の構築をさらに進めていきたい。 | |

大阪市立東中学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | | |
|------|---------------------|------------------------|
| 評価基準 | A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| | C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>全市共通目標（小・中学校）</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和2年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（2年1.08、3年1.11）より向上させる。 令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。 令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。 令和2年度の校内調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（92%）より増加させる。 令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である50m走と立ち幅とびの平均の記録を、平成28年度より50m走（男子8.05・女子8.98）は0.1ポイント、立ち幅とび（男子195.00・女子167.84）を3ポイント向上させる。 <p>学校園の年度目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 令和2年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を95%以上にする。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を70%以上にする。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校はICT機器を活用して、授業実践に努めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を80%以上にする。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「技術・家庭科技術分野の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を80%以上にする。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」の | B |

| | |
|--|--|
| <p>項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を90%以上にする。</p> <p>8. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。</p> <p>9. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を85%以上にする。</p> <p>10. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を食べて食事をするように心がけている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を70%以上にする。</p> | |
|--|--|

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 （教務部） | 進捗状況 |
|--|----------|
| 取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（市-1 学-2） 言語活動の取り組みをすべての教科で取り入れ、思考力、判断力、表現力の育成を図り、学力向上に生かす。 | |
| 指標 <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（2年3教科は1.08、3年1.11）より向上させる。 ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を95%以上にする。 ・言語活動を取り入れた授業を、すべての教科で、年1回の公開授業において行う。 | B |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年の中学生チャレンジテストは実施されなかった。2年については、5教科の対府平均比は1.14、3教科の対府平均比は、1.16で、3教科の対府平均比は昨年の1.08から0.08ポイント向上した。1年の3教科の対府平均比は1.16であった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合は91%であった。目標を4ポイント下回った。 ・9月に思考力・判断力・表現力の育成を目標に、言語活動を取り入れた公開授業を実施した。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公開授業等の研修を生かし、次年度も授業改善に努め、チャレンジテストの結果につなげていく。 | |
| <p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（市-2・3） 授業の予習・復習等に活用できる家庭学習教材を単元ごとに作成、提供し、自主学習の習慣を定着させる。自ら学ぶ態度を養い、学力の向上を図る。</p> | |

指標

- ・家庭学習教材を授業ごとに提供する。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「自ら学ぶよう努力している」と答える生徒の割合を昨年度と同等以上にする。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「自ら学ぶ方法や習慣を身につけさせる学習指導や家庭学習の習慣づけを行うために、保護者に対して様々な働きかけをしている」と答える教職員の割合を昨年度と同等以上にする。
- ・令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- ・令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。

A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・3年の中学生チャレンジテストは実施されなかった。
- ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合は、2年については、13.6%で昨年度1年生時10.3%から3.3%増加した。なお、1年は8.6%であった。
- ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合は、2年については、44.0%で昨年度1年生時31.5%から12.5%増加した。なお、1年は50.8%であった。

【取組内容】について

- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「自ら学ぶ方法や習慣を身につけさせる学習指導や家庭学習の習慣づけを行うために、保護者に対して様々な働きかけをしている」と答える教職員の割合97%で昨年度を7ポイント上回った。各教科での学習指導の工夫や、休校中や長期休業中の課題も含め、家庭学習教材を計画的に提供していると考えられ、令和2年度の学校生活アンケートにおいて「自ら学ぶよう努力している」と答える生徒の割合は、昨年度を6ポイント上回り86%であった。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・チャレンジテストに向けて、次年度も予習・復習に活用できるような家庭学習教材の提供や自主的学習を促すような授業・教材をより工夫し、提供する。

取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市-2・3)

教科の年間指導計画及びシラバスを作成し実践する。また、「シラバス・通知表の見方」を用いて、評価についての保護者向けの説明会を実施する。

指標

- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「教科の年間指導計画や指導案を作成し、実践するとともに、教材を工夫し、授業改善を行っている」と答える教職員の割合を昨年度と同等以上にする。また、絶対評価について、シラバスをもとに保護者集会を開き、説明を行う。
- ・令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- ・令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の

B

割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・3 年の中学生チャレンジテストは実施されなかった。
- ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合は、2 年については、13.6% で昨年度 1 年生時 10.3% から 3.3% 増加した。なお、1 年は 8.6% であった。
- ・中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合は、2 年については、44.0% で昨年度 1 年生時 31.5% から 12.5% 増加した。なお、1 年は 50.8% であった。

【取組内容】について

- ・7 月に絶対評価や学習内容・方法について、シラバスを全保護者に配布し、保護者集会で説明を行った。また教科においては、新型コロナウィルス感染症の拡大防止のための休校が続いたが、指導計画を見直し、授業の工夫・改善してきた。その結果、令和 2 年度の学校生活アンケートにおいて「教科の年間指導計画や指導案を作成し、実践するとともに、教材を工夫し、授業改善を行っている」と答える教職員の割合は 97% で昨年度と同等であった。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・次年度も、授業や懇談、集会等で、学習内容・学習方法・評価方法等を保護者や生徒に理解してもらえるよう努める。

取組内容④【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】(学-5)

授業力向上に向けて、授業における ICT 機器の補完的活用法を研究する。あわせて、ICT 機器の整備と効率的な運用を図る。

A

指標

- ・令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「学校は ICT 機器を活用して、授業実践に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を 80% 以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和元 2 年度の学校生活アンケートにおける「学校は ICT 機器を活用して、授業実践に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合は 97% で目標を 17 ポイント上回った。

【取組内容】について

- ・新型コロナウィルス感染症の拡大防止のため、GIGA スクール構想の実現も早まり、ICT 機器を使用する機会が増え、それに伴う研修の機会も増えた。アンケート結果はその成果と考えられる。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・次年度は、いよいよ一人一台の端末環境を実現、充実するため、環境整備や授業展開の中で ICT 機器を活用するための研修を実施していく。

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (国語科) | | 進捗状況 | |
|--|---|------|--|
| 取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市-1) 国語を適切に表現し、自主的、意欲的に理解を深められるような、授業内容の創造と教材づくりを行う。 | B | | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（2年1.12、3年1.10）より向上させる。 | | | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | | | |
| <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年の中学生チャレンジテストは実施されなかった。2年については、国語の対府平均比は1.15で、昨年の1.12から0.03ポイント向上した。1年の国語の対府平均比は1.09であった。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 言語活動を工夫し、ワークシートの活用、ICT機器を用いて教材づくりを行った。 | | | |
| 次年度への改善点 | | | |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 意欲的に理解を深められる教材作りを工夫していく。 | | | |
| 取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市-2 学-1・2) 計画的に習熟度別授業を実施することにより、「個に応じた教育」を進め、学力向上へとつなげる。 | B | B | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を95%以上にする。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合を90%以上にする。 | | | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | | | |
| <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 3年の中学生チャレンジテストは実施されなかった。 2年の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合は、8.9%で、昨年度1年生時の8.2%から0.7%増加した。なお、1年は10.3%であった。 令和2年度の後期学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合は91%で目標を4%下回った。 令和2年度の後期学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童（生徒）の割合が89%と目標を1ポイント下回った。 <p>【取組内容】について</p> | | | |

| | |
|---|-----------------|
| <ul style="list-style-type: none"> 定期テスト、実力テスト前を中心として計画的に習熟度別授業を実施した。 | <p>次年度への改善点</p> |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に合わせて、どのような授業形態が望ましいか模索しながら、習熟度別少人数授業が実施できるよう、計画していく。また、主体的な学びを深めるために、授業形態や教材を工夫し、生徒の「学力向上」につなげる。 | |
| <p>取組内容③【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市-3・4 学-2・3)</p> <p>国語を学ぶ上で基礎基本となる語彙力を高め、言語を通した思考力を育成する。</p> | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字能力検定試験を、希望者を対象に年に 2 回以上、校内で実施する。漢字学習の動機づけとともに、中学校配当漢字を網羅した漢字能力検定への取組を通じて、語彙力を向上させる。また、受検の有無に関わらず、語彙力を向上させ、「漢字を文や文章の中で使うことのできる力」を身につけさせる。 自分の考えを言語で表現できる授業展開を工夫し、令和 2 年度学校生活アンケートで「授業終了まで授業に集中していた」と答える生徒の割合について、昨年度と同等以上（90%）にする。 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を 70% 以上にする。 図書室を利用した授業を全学年で合計 30 回以上実施する。図書室での授業を通して、資料等を活用し、自分の思考をまとめ、表現する方法を身につけさせるとともに、読書活動の推進を図る。 令和 2 年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 2 ポイント増加させる。 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（92%）より増加させる。 | B |
| <p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> | |
| <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 漢字能力検定試験を 9 月 11 日（金）と 1 月 30 日（土）行った。受検者は 75 名、56 名の計 131 名であった。 令和 2 年度の後期学校生活アンケートの「授業終了まで授業に集中していた」と答える生徒の割合について、91% となり、目標の 90% に到達した。 令和 2 年度の後期学校生活アンケートにおける「調べ学習や資料提示等を通じて、学校図書館を活用した授業づくりを進めている」の項目について、肯定的に回答する教職員の割合が 87% となり、目標を 17% 上回った。 図書室を利用した授業は 1 月末までに全学年で 20 回実施することができた。 3 年の中学生チャレンジテストは実施されなかった。 2 年の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合は、51.7 % で昨年度 1 年生時の 46.7 % から 5.0 % 増加した。なお、1 年は 37.8 % であった。 令和 2 年度の後期学校生活アンケートの「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の | |

| <p>考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は、92%となり、昨年と同値であった。</p> <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語を学ぶ上で基礎基本となる語彙力や思考力を養う授業を展開し、教材やワークシートを工夫してきた。日々の学習課題の掲示、点検を着実に行った。 | |
|--|------|
| 次年度への改善点 | |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「基礎基本の充実」「言語活動による思考力の育成」をめざした活動を進める。ICT機器や学習端末の工夫をさらに行い、言語活動の充実を図る。 | |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (社会科) | 進捗状況 |
| 取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市-1・2・3) 単元ごとの復習プリントを活用し、授業の内容を確認させ、さらなる学習理解をはかり、基礎的・基本的な学力の向上を図る。 | B |
| 指標 <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の3年中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、前年度(3年1.05)より向上させる。 ・令和2年度の3年中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、前年度より2ポイント減少させる。 ・令和2年度の3年中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、前年度より2ポイント増加させる。 ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「授業がわかりやすい」と答える割合を昨年度と同等以上にする。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>【年度目標】【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年の中学生チャレンジテストは実施されなかった。 ・2年については、社会の対府平均比は1.10であった。 ・2年の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合は、15.5%であった。 ・2年の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合は、40.9%であった。 ・令和2年度の後期学校生活アンケートにおける「授業がわかりやすい」と答える割合は92%で昨年度より3ポイント上回り目標を達成した。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標に対し成果は得られているが、引き続き基礎学力の定着をはかれるよう、教師間で相互参観をするなど授業内容の改善を行っていく。 | |
| 取組内容②【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】(学-7) 国内だけでなく、国際社会に起こる社会的事象に対する興味・関心を高め、国際社会において生き抜く力を育成する。 | B |
| 指標 <ul style="list-style-type: none"> ・授業においては、社会事象に関する話題を取り上げ、また、定期テストにおいても時事 | |

| | |
|--|--|
| 問題を取り入れた設問を出題する。さらに、学校生活アンケートにおいて「社会事象に興味・関心を持つようになった。」と肯定的に答える生徒の割合を90%以上にする。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>【年度目標】【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートにおいて「社会事象に興味・関心を持つようになった。」と肯定的に答える生徒の割合87%となり、目標を3ポイント下回った。 ・3ポイント下回った要因として、国際社会で起こった事象のほとんどが新型コロナウイルス関連のものだったことが考えられる。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、時事問題に関する話題を取り上げ、興味・関心を持つように指導していく。 | |
| <p>取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市-4、学-2)</p> <p>調べ学習や課題解決を通して自分の考えを深めたり、広げたりする学習を行い、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p> | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を95%以上にする。 ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度(92%)より増加させる。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>【年度目標】【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合91%で、年度目標、および取組内容の指標を下回っている。 ・「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童(生徒)の割合は92%で、増加させることはできなかった。 ・目標を達成できなかった要因として、新型コロナウイルス感染防止対策として、言語活動を取り入れたりコミュニケーションを活発に取ったりすることが難しい状況だったことが考えられる。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も感染防止対策を講じながら、自分の考えを深めたり、広げたりする学習ができるよう工夫していく。 | |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (数学科) | |
| <p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市-1・2・3・4)</p> <p>基礎的・基本的な概念や知識の定着をめざすとともに、数学的活動を通して思考力・判断力・表現力の育成を図る。</p> | |

指標

- ・令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。
- ・令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話す活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（92%）より増加させる。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】【取組内容】について

- ・3年の中学生チャレンジテストは実施されなかった。2年については、数学の対府平均比は1.20で、昨年の1.11から0.09ポイント向上した。1年の数学の対府平均比は1.21であった。
- ・2年の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合は、16.1%で、昨年度1年生時の18.9%から2.8%減少した。なお、1年は9.7%であった。
- ・2年の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合は、53.3%で昨年度1年生時の43.2%から10.1%増加した。なお、1年は56.8%であった。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話す活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は92%（前期88%）で目標を達成した。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・全学年において主体的・対話的な学習を取り入れ、自ら考え、問題を多面的に見る力の育成が必要である。全学年の教師の連携を現在よりも密にし、習熟度別少人数授業を通して、達成状況をさらに向上させていく。

取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（学-1）
計画的に習熟度別授業を実施することにより、「個に応じた教育」を進め、学力向上へとつなげる。

指標

- ・習熟度別少人数授業を通年で計画的に実施する。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業の授業はわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合は91%（前期88%）で目標を1ポイント上回った。

【取組内容】について

- ・習熟度別授業を計画的に実施できている。

次年度への改善点

| | |
|---|------|
| 【目標設定】について | |
| ・次年度も習熟度別少人数授業を計画通りおこなう。習熟度別少人数授業の利点を活かすためにも情報共有と教材研究にさらに力を入れていきたい。 | |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (理科) | 進捗状況 |
| 取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市-1) 自然現象に対して自主的、意欲的に理解を深められるような、授業内容の創造と教材づくりをおこなう。 | B |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和 2 年度の 3 年中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、前年度（3 年 1. 12）より向上させる。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 【年度目標】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> 3 年の中学生チャレンジテストは実施されなかった。 2 年については、理科の対府平均比は 1. 1 1 であった。 | |
| 【取組内容】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ICT 機器も利用し、自然現象に対して自主的、意欲的に理解を深められるような授業内容を工夫してきた。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 【目標設定】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> 自然現象に対して自主的、意欲的に理解を深められるようにさらに指導計画を検討していく。 | |
| 取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市-2) 演示実験やプリント教材を有効に活用し、基礎的・基本的な学力の向上を図る。 | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期テストにおける「知識・理解」の問題の正答率を昨年度と同等以上にする。 令和 2 年度の 3 年中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、前年度より 2 ポイント減少させる。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 【年度目標】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> 3 年の中学生チャレンジテストは実施されなかった。 2 年の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の 7 割に満たない生徒の割合は、23.1 % であった。 | |
| 【取組内容】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> 1 学期終了時で、3 年生の定期テストにおける「知識・理解」の問題の正答率は、昨年度の 68% から 59% となり、2 年生においては、昨年度の 56% から今年度 68% となっているが、単元の違い、問題の難易度の差が関係していると考えられる。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 【目標設定】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> 理解を深めるための教材の工夫や確認プリントなどを行うことで、基礎・基本の定着を図っていく。 | |

取組内容③【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市 - 3・4 学年)

実験・観察を多く取り入れことにより、理科に対する興味・関心を高め、様々な自然現象について論理的に説明する能力を育成する。

指標

- 令和 2 年度の 3 年中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、前年度より 2 ポイント増加させる。
- 定期テストにおける「科学的な思考」の問題の正答率を昨年度と同等以上にする。
- 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を 95% 以上にする。
- 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（92%）より増加させる。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- 3 年の中学生チャレンジテストは実施されなかった。
- 2 年の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を 2 割以上上回る生徒の割合は、42.3 であった。
- 今年度の 3 年生の定期テストにおける「科学的思考の問題」の正答率は昨年度の 64% から 46% になり、2 年生は、昨年度 37% から 47% になっているが、単元の違い、問題の難易度の差が関係していると考えられる。
- 令和 2 年度の前期学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合は 91% で、目標を下回った。これは現在グループワークなどができることが影響していると考えられる。
- 令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は 92% で、前期 88% から 4 ポイント上がり目標に到達した。

【取組内容】について

- 実験・観察では、言語活動の取り組みを取り入れ、結果から考察までを論理的に説明する能力の育成をはかってきた。
- ICT 機器の利用や理科室をフル活用することで、自然現象への理解や関心が深まるよう努めてきた。その結果、学校生活アンケートにおいて「理科の実験・観察などの授業に興味を持って参加している。」と答える生徒の割合 94% で、昨年度 93% から 1 ポイント上回った。

次年度への改善点

【目標設定】について

- 生徒の実験・観察に対する興味・関心は高く、意欲的に取り組む姿勢が見られた。これを生かし、今後も実験・観察を通して様々な自然現象について理解し、論理的に説明する能力を育成する。

【取組内容】について

- 校舎改築に伴い理科室が 1 つになるので、ICT の活用などの工夫を進めていきたい。

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (音楽科) | | 進捗状況 |
|---|----------|------|
| 取組内容①【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(学-2) 基礎発声の継続的な練習と、感性を育て表現力を培うためのよりよい教材の精選、生徒の興味・関心を生かした意欲的な学習を行う。 | | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学期に1回、歌唱もしくは器楽の実技テストを行い、表現活動における個々の次の目標設定に役立てる。 令和2年度学校生活アンケートにおける「音楽の授業に積極的に参加できた」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にする。 | A | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | | |
| <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 実技テストは歌唱及び器楽の両方で実施することができた。 <p>令和2年度の学校生活アンケートにおける「音楽の授業に積極的に参加できた。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は92%で前年度より2ポイント下回ったが、前期に比べ5ポイント上回った。</p> <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度より下回った要因としては、コロナウイルス感染対策のために合唱コンクールが中止になったことや、授業中の歌唱やリコーダーやグループワークについても十分に実施できなかつたことが考えられる。しかしその中でも音楽の授業を充実させるために、ルーブリック評価を用いて生徒に授業での明確な行動目標や学習目標を示すことにより、制限がある中でも積極的に音楽の授業に参加する生徒が増えた。 | | |
| 次年度への改善点 | | |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽的な見方・考え方を働きかせ、他者と協働しながら、音楽表現を生み出したり音楽を聴いてそのよさや美しさなどを見出したりするなど、思考、判断し、表現する一連の過程を大切にした学習の充実を図りたい。そのため、生徒のニーズに合った教材の精選をし、日々の授業での明確な行動目標や学習目標を示すことにより主体性を身に着けさせたい。 | | |
| <p>取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(学-2) 幅広い音楽分野の表現と鑑賞活動により、多様な音楽表現の豊かさや美しさを感じとり、表現の創意工夫につなげていく。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 全学年とも学期に一回鑑賞を行う。その際、西洋音楽に偏らず、世界の民族音楽や日本の伝統音楽も取り上げる。 令和2年度学校生活アンケートにおける「授業で習った曲に興味を持つことができた」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と答える生徒の割合を70%以上にする。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度(92%)より増加させる。 | B | |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
|--|------|
| <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学年とも学期に一回の鑑賞を行うことができた。また、世界の民族音楽や日本の伝統音楽も取り入れている。 令和2年度学校生活アンケートにおける「音楽の授業で習った曲に興味を持つことができた」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合は80%で前年度からは7ポイント下回ったが、前期に比べて3ポイント上回った。 | |
| <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 前年度より下回ったことに関しては、コロナウイルス感染症対策のために十分に歌唱指導や器楽の指導、グループワークなどが十分に行えなかつたことが要因として考えられる。しかし、人前で自分の意見を発表する生徒が増え、ワークシートに自分の意見を具体的に記入するなど、音楽に対しての興味は高まっていると考えられる。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞活動においては、その音楽のよさや美しさに迫ることができるような特徴的な要素や構造を明確にし、そこに着目させるような指導の工夫を図りたい。また、表現活動においては、音楽表現に対する思いや意図に応じて、その思いや意図を表現するために知識や技能を活用しながら創意工夫ができるように指導の工夫を図りたい。 | |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (美術科) | 進捗状況 |
| <p>取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(学ー2)</p> <p>発想力を豊かにし、知識・技能の向上に努め、意欲的に表現活動に取り組む態度を育てるため、取組内容や教材を精選する。</p> | A |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> すべての題材で言語活動の充実を図り、振り返り用のプリントを利用して学習内容の定着を図る。 令和2年度末における学校生活アンケートで「美術の授業に積極的に参加できた」と答える生徒の割合について、全体の90%以上にする。 | A |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 取り組んだすべての題材において、振り返り用のプリントや紹介カードを活用した。 令和2年度後期における学校生活アンケートで「美術の授業に積極的に参加できた」と答えた生徒の割合は90%で、前期より3ポイント上昇し、目標を達成した。 | |
| <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 休校期間の影響により実施しなかった内容はあるものの、ほとんどの教材は計画どおりに取り組むことができた。年間を通じて「かく」「つくる」活動にまんべんなく取り組み、総合文化祭に各学年から出品することができた。また中止になった造形展も出品予定であった。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後も題材ごとに学習内容を振り返ることのできるプリントを使用し、定着を図る。 アンケート結果は目標の数値に並ぶことができたが、昨年度より2ポイント下がっている事實を受け止め、今後も教材研究に励みたい。 | |

取組内容②【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市一4)
造形的なよさや美しさ、素材の生かし方、作者の心情や意図と造形的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わう力を養うため、鑑賞活動の充実を図る。

指標

- ・各学年において、鑑賞活動を主とした単元を前後期各 1 回ずつ行う。
- ・令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（92%）より増加させる。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和 2 年度後期の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合 92% で、昨年度と同等であった。

【取組内容】について

- ・全学年とも前後期一回以上、鑑賞活動を主とした単元に取り組むことができた。ただし一学期の間に実施できなかった学年があった。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・課題としている鑑賞活動について、新たな題材の作成に手応えを感じることができた。一方相互鑑賞についてはグループワークにあたるため、本年度はほとんど取り組むことができなかった。今後は感染症対策をふまえつつ、積極的に取り組んでいきたい。

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (保健体育科)

進捗
状況

取組内容①【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】(学一8)

- ・年度当初、男女共修での集団育成を重点的に行い、授業規律の確立、授業への意識の向上を図る中で授業効率を高め、運動量の確保に取り組む。
- ・教科書やワークシートで知識の理解を深め、体育館に設置された電子黒板を最大限に活用し、視覚的にもわかりやすい授業展開を図る。

指標

- ・令和 2 年度に校内で実施をする第 2 学年の体力テストにおいて、前年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を全国平均より向上させる。
- ・令和 2 年度に校内で実施をする第 2 学年の体力テストにおいて、前年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価 (A～E) の内、AB-DE の数値を全国平均より向上させる。
- ・令和 2 年度の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒の割合を 70% 以上にする。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和 2 年度後期の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒が 89% (前年度 90%) になり、年度目標である 70% を大きく上回った。

【取組内容】について

- ・今年度も年度当初は集団行動に力を入れた。その成果があり、各クラス授業規律の確立がなされている。
- ・令和2年度に校内で実施する第2学年の体力テストにおいて、前年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における体力合計点を全国平均より向上させることを指標としていたが、令和2年度全国体力・運動能力、運動習慣調査は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止となった。そのため、全国平均との比較はできなかった。
- ・令和2年度に校内で実施する第2学年の体力テストにおいて、前年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（A～E）の内、AB-DEの数値を全国平均より向上させることを指標としていたが、令和2年度全国体力・運動能力、運動習慣調査は新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため中止となった。そのため、全国平均との比較はできなかった。
- ・令和2年度に校内で実施した第2学年の体力テストは、握力・長座体前屈・反復横とび・50m走・立ち幅とびの5種目であった。5種目の体力合計点は令和元年度の2年生と比較すると、男子 23.45 (-0.88)、女子 28.48 (-2.39)となり、下回る結果となった。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・運動の基礎となる体力や運動能力の伸び率が低いことが、校内で実施した第2学年の体力テストの結果で示された。今年度は長期間の休校や運動制限により、例年並みの運動量を確保することができなかった。次年度はできるかぎり毎時間の授業でランニング、準備体操、柔軟運動、補強運動を継続しておこない、体力・運動能力の向上をめざしたい。また、学校生活アンケートでは「保健体育の授業や部活動等に積極的に取り組んでいる」生徒の割合が、令和2年度は89%（前年度90%）となった。運動に対して意識の高い生徒たちに、教師側からの一方的な授業展開ではなく、生徒たちの主体的な活動の中で思考力や判断力を育む授業展開に重点を置き、「心身ともに鍛え抜かれる東中学校の体育」を実践していきたい。そのための参考資料として各種目のデータ公開や電子黒板等のICT機器を積極的に活用し、生徒たちの思考判断力を育む資料の提供にも注力していきたい。

取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】（市-5）

- ・体力テストの実施に向けて、昨年度の結果を再掲示するとともに自己の昨年の記録とともに今年の目標を設定させることで、意欲的に体力テストに臨む姿勢を育てる。
- ・体力テスト実施後の結果について、昨年度の全国・大阪府と比較分析したものを掲示し、自己の記録との比較を通して、課題を見つけさせるなど、生徒の意識向上を図る。
- ・令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である50m走と立ち幅とびの平均の記録を、平成28年度より50m走（男子8.05・女子8.98）は0.1ポイント、立ち幅とび（男子195.00・女子167.84）を3ポイント向上させる。

指標

- ・令和2年度に校内で実施をする第2学年の体力テストにおいて、前年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（A～E）の内、ABの割合を男子35%以上、女子65%以上にする。
- ・令和2年度に校内で実施をする第2学年の体力テストにおいて、前年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価（A～E）の内、DEの割合を男子25%以下、女子15%以下にする。

B

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
|----------------------------------|---|
| 【年度目標】について | <ul style="list-style-type: none"> ・50m走と立ち幅とびの平均の記録の平成28年度との比較について、50m走は男子がH28(8.06)、R2(8.17)となり(-0.11)、女子はH28(8.76)、R2(9.01)となり(-0.25)となった。立ち幅とびは男子がH28(197.68)、R2(192.36)となり(-5.32)、女子はH28(167.33)、R2(169.61)となり(+2.28)となった。このように課題である50m走と立ち幅とびの平均の記録は、立ち幅とび女子が上回ったものの、それ以外は下回る結果となった。今後は、運動やスポーツに対する興味関心を高められるよう授業内容の工夫・改善を図りたい。 |
| 【取組内容】について | <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査が中止になり、令和元年度の結果を再掲示することは行わなかった。 ・令和2年度、校内で実施した体力テスト5項目の際には、各種目の実施方法および得点票を拡大掲示して目標設定が明確にできるように環境を整えた。 ・令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価(A~E)の内、ABの割合を男子35%以上、女子65%以上にするについて、令和2年度は全国体力・運動能力、運動習慣調査が中止になったため、全国平均との比較はできなかった。 ・令和元年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査における段階別総合評価(A~E)の内、DEの割合を男子25%以下、女子15%以下にするについて、令和2年度は全国体力・運動能力、運動習慣調査が中止になったため、全国平均との比較はできなかった。 |
| 次年度への改善点 | |
| 【目標設定】について | <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に見れば運動に興味をもち、前向きに授業に取り組む姿勢が整いつつあるが、一部の生徒には運動が苦手であることから消極的な姿勢が見受けられる。「健康や体力を保持増進する」という観点から、毎時間実施している準備運動の充実に今後も継続して取り組むとともに、生涯にわたり運動に親しむ姿勢を育むために、全ての単元において協同学習(小集団)での授業展開に重点を置き、学び合いの中からリーダー育成、運動が苦手な生徒の支援などに取り組む。 |
| 取組内容③【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】(学-8) | <ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト・体育大会・マラソン大会・球技大会を日頃の体育の授業や部活動での成果を発揮する場として位置づけ、体育委員を中心とした主体的活動に取り組む。 ・体育大会実行委員会活動や縦割り活動を積極的に行い、学年間の交流を深め、主体的行事や授業に取り組ませることで効果的な伝承を図る。 |
| 指標 | <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の後期学校生活アンケートにおける「学校行事である体育大会では自分の力を十分に発揮できる」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を80%以上にする。 ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度(92%)より増加させる。 ・体育委員会による夏休みの「ボールの貸し出し」活動を本年度も年間を通して実施し、主体的に運動に親しむ機会を設ける。 ・夏休みの水泳指導を実施する。 |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
|--|------|
| <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度後期の学校生活アンケートにおける「体力や運動能力向上のため、保健体育の授業や部活動等に積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える生徒が89%(前年度90%)になり、年度目標である70%を大きく上回った。 | |
| <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の後期学校生活アンケートにおける「学校行事である体育大会では自分の力を十分に発揮できる」の項目について、肯定的に答える生徒の割合が82%(前年度84%)となり、設定目標についても(+2)となつた。 令和2年度後期の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合が92%(前期88%)で、年度目標である前年度(92%)と同値となつた。 生徒会と体育委員会による昼休みの「ボールの貸し出し」活動を今年度も年間を通して実施し、主体的に運動に親しむ機会を設けている。 夏休みの水泳指導を2回実施した。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒たちの主体的な活動が、体育大会という期間限定の活動になるのではなく、日常の授業に重点を置いて、体育委員を中心とした「共同学習」を取り入れた授業が展開できるよう工夫をしたい。 | |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (技術・家庭科) | 進捗状況 |
| <p>取組内容①【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】(学ー5) ICT機器を活用した学習活動を通して、基礎的・基本的な内容の定着を図る。</p> | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の学校生活アンケートで「授業に積極的に取り組み、基礎的な知識や基本的な技術が身についた。」と答える生徒の割合について、全体の80%以上にする。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校はICT機器を活用して、授業実践に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を80%以上にする。 | A |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「学校はICT機器を活用して、授業実践に努めている。」と答える教職員の割合は97%で指標を超えている。 | |
| <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 「授業に積極的に取り組み、基礎的な知識や基本的な技術が身についた。」と答える生徒の割合は全体の89%で指標を超えてはいるが、昨年度に比べると2ポイント低下している。 | |
| 次年度への改善点 | |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ICT機器に関しては、効果的な活用についての工夫・改善がこれからも必要であると思われる。今後、実習においてもICT機器を効果的に使い、生徒の学習意欲の向上を図り、基礎的・基本的な知識・技能の定着に努めていく。 | |

- ・基礎的・基本的な知識・技術においては1年生の割合が低く、82%であった。休校期間の影響から少ない授業時数に内容を詰め込んでしまった影響があるかもしれない。実習は引き続き安全に、丁寧に時間をかけて行っていきたい。

取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市ー4 学ー2)

工夫し創造する能力の育成をねらい、言語活動を取り入れた授業実践を行う。

指標

- ・3カ年の指導計画を見通しながら、各領域で少なくとも1回は言語活動を取り入れた授業実践を行う。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える教職員の割合を95%以上にする。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童(生徒)の割合を、前年度(92%)より増加させる。

B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」と答える教職員の割合は91%で指標を4ポイント下回った。

【取組内容】について

- ・「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する児童(生徒)の割合は92%であった。
- ・各領域において言語活動を取り入れた授業実践を行った。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・指標に到達していない原因として、休校期間の影響から授業時間数が十分に確保できていないため、言語活動を取り入れた授業実践が満足にできていない点が挙げられる。来年度は班活動や実習内での言語活動を工夫するなどして、取り組んでいきたい。

取組内容③【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】(学ー6)

技術分野の学習において、論理的思考を促す授業展開を行う。

A

指標

- ・令和2年度の学校生活アンケートで「技術家庭科(技術分野)の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」と答える生徒の割合を80%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・「技術家庭科(技術分野)の授業におけるプログラミング学習において、論理的に考えるための手順を学ぶことができた」と答える生徒の割合は91%であった。(3年生のみ対象)

【取組内容】について

- ・上記に同じ

| 次年度への改善点 | |
|--|------|
| 【目標設定】について | |
| ・プログラミング学習は2、3年生の3学期実施であるため、アンケートに反映されにくい。他の領域と関連させたり、分野間や教科間で連携を図ったりしながら、論理的思考の育成に取り組んでいきたい。 | 進捗状況 |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (英語科) | |
| 取組内容① 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市-1・3) 英語での表現活動を多く取り入れることにより、表現力を育成する。 | A |
| 指標 | |
| ・令和2年度の中学生チャレンジテストにおける対府平均比を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度（2年1.01、3年1.16）より向上させる。 ・令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント増加させる。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 【年度目標】【取組内容】について | |
| ・3年の中学生チャレンジテストは実施されなかった。 ・2年については、英語の対府平均比は1.13（昨年度1.01 +0.12ポイント）で、昨年度を上回っており、目標を達成した。なお、1年の英語の対府平均比は1.19であった。 ・2年の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均を2割以上上回る生徒の割合は、47.2%（昨年度29.7% +17.5ポイント）と目標を大きく上回った。なお、1年は57.0%であった。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 【目標設定】について | |
| ・例年、記述式の問題での無回答率や不正解率が高いため、今後も授業の中で、ライティングやスピーチングなどの英語での表現活動を意図的に多く取り入れることにより、表現力を育成する。 | |
| 取組内容② 【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(市-2 学-1) 個に応じた指導方法を工夫し、基礎的・基本的な学力の向上を図る。 | B |
| 指標 | |
| ・令和2年度の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント減少させる。 ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 【年度目標】について | |
| ・3年の中学生チャレンジテストは実施されなかった。 ・2年の中学生チャレンジテストにおける得点が府平均の7割に満たない生徒の割合は、20.0%（昨年度19.5% +0.5ポイント）となり、目標には届かなかった。なお、1年は9.1%であった。 | |

| | |
|---|---|
| <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の学校生活アンケートにおける「習熟度別少人数授業はわかりやすい」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合は89%（前年度比-2p）で、目標には少し届かなかった。 | <p>次年度への改善点</p> |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの生徒が習熟度別少人数授業を好意的にとらえている。今後も、習熟度別少人数授業を効果的に実施し、基礎的・基本的な学力の向上を図る。 | |
| <p>取組内容③ 【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】（市-4 学-4）</p> <p>英語を活用する実践的な力と積極的な態度を育成する。</p> | <p>A</p> |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の学校生活アンケートにおける「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度（92%）より増加させる。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合を90%以上にする。 C-NET（大阪市外国人英語指導員）の授業を、各学年、毎月2時間程度実施する。 英語能力検定試験を希望者を対象に校内で実施する。英語学習に対する動機付けとともに、英語を使用できる能力を身につけさせる。また、3年生で3級（中学校卒業程度）以上の生徒の割合を10%以上にする。 | |
| <p style="text-align: center;">年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p> <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度の校内調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、肯定的に回答する生徒の割合は92%（前年度と同様）で、目標を達成した。 令和2年度の学校生活アンケートにおける「英語の授業でのアクティビティに積極的に取り組んでいる」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える生徒の割合88%（前年度と同様）と目標に少し届かなかった。コロナ禍で活動が制限されている中ではあるが、高い数値を維持することができた。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> C-NET（大阪市外国人英語指導員）の授業は、1月末現在で3年は8時間、2年は12時間、1年は10時間ずつ実施した。時間のない中ではあるが、ある一定の授業数は確保することができた。 第1回の英語能力検定試験はコロナのため中止せざるを得なかつたが、第2回は2年生全体で実施、第3回も2級以上という制約はあったが、全学年対象の試験を実施できた。 英語能力検定試験実施の結果、3年生では約30%の生徒が3級以上の能力を身につけている。また、2年生でも約10%の生徒が、1年生でも若干名の生徒が3級以上であり、学校として高い水準を維持していると考えられる。 | <p style="text-align: center;">次年度への改善点</p> |
| <p>【目標設定】について</p> <ul style="list-style-type: none"> C-NET（大阪市外国人英語指導員）は校区の4小学校と兼任のため、中学校への勤務日は | |

週1～2回であり、その勤務日に順番に3学年全クラスの授業を実施している状況にある。今後も限られたC-NET（大阪市外国人英語指導員）の授業を効果的に活用し、またさまざまなアクティビティを取り入れることで、英語を活用する実践的な力と積極的な態度を育成する。

- ・英語能力検定試験においては今後も引き続き実施できるよう調整を図っていく。

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (健康教育部) | 進捗 状況 |
|--|----------|
| <p>取組内容①【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】(学-9) 生涯にわたり健康な心身を保持増進できるように、生活習慣や自己管理能力を身につけさせる。</p> <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健指導（保健だより・健康教室の開催など）を各学期に1回、定期的に行う。 ・ポスター掲示、プリントの配布などを通して、啓発活動を行う。 ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気をつけている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）と答える生徒の割合を85%以上にする。 | A |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 |
|---|
| <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートにおける「手洗い・うがいをしっかりし、健康に気を付けている。」の項目に肯定的に答えた生徒の割合は98%であり、5ポイント上回った。特に今年度は、新型コロナウイルスへの対策で手洗い・うがいを意識することや実施する機会が多く、その必要性を実感してのアンケート結果と考えられる。R2前期の時よりもさらにポイントが上がったのは、意識の継続が出来ていることと、手洗い・うがいの定着が考えられます。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『保健だより』等のプリント配布や、ポスターの掲示を通して健康に関する啓発を月に1回のペースで行っている。 ・教室の換気に関しても、季節が変わる中でも継続して取り組まれた。 |
| <p>次年度への改善点</p> |

| 【目標設定】について |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・来年度も生徒が健康を意識して日常生活を送れるように、啓発活動を続ける。新型コロナウイルスへの対策も日々の検温・手洗い指導・マスクの着用・消毒作業等からも意識を持ち続けさせる取り組みを進めていく。 |

| | |
|--|---|
| 取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】(学-10) 望ましい食生活を身につけさせ、「食」への意識を向上させる。 | B |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月1回の『食育だより』を通じて、生徒や保護者に「健康や体力を保持増進する力」を育成する。 ・令和2年度の学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事をするように心がけている。」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）と答える生徒の割合を70%以上にする。 | |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 |
|---|
| <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートにおける「栄養バランスや食べる時間・量等を考えて食事するように心が |

| | |
|---|----------|
| けている。」の項目に肯定的に答えた生徒の割合は83%で、昨年度に比べてマイナス1ポイントであったが、指標に対しては達成できた。 | |
| 【取組内容】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・『食育だより』は月一回のペースで配布している。 ・保健委員会では、給食終了後に配膳室前で給食の片づけの活動も行い、役割分担としても定着してきた。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 【目標設定】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・給食時間は限られた時間ではあるが、食事の準備から片付けも含め食事の時間を大切にできるよう来年度も生徒に働きかけていく。 | |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (人権道徳委員会) | 進捗状況 |
| 取組内容①【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】(学-7) 基本的な道徳指導や人権尊重の姿勢について教職員が理解を深められるように、研修等の情報提供を行う。また、帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒についての情報共有や支援を適宜行い、違いを尊重し認め合える教育活動を展開していく。 | B |
| 指標 | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・人権教育実践交流会、道徳学習会の参加を呼び掛ける。また、人権道徳関係の研修案内や通信の配付、ポスター掲示、回覧等で情報提供を適宜行う。 ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」と答える教職員の割合を90%以上にする。 | |
| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 | |
| 【年度目標】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・学校生活アンケートにおいて「帰国・来日等の生徒や外国にルーツのある生徒が学校生活を円滑に送れるよう、日本語指導をはじめとする直接的な支援をするとともに、違いを尊重し認め合えるよう配慮しながら教育活動を進めている」と答える教職員の割合は94%であった。 ・電子翻訳機を購入し、各学年に1台ずつ配備している。 | |
| 【取組内容】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・今年度は各種研修会の集まりが中止・延期されることが多いため、道徳研修や人権道徳関係の研修案内はあまりできていない。道徳・人権学習教材の情報提供を積極的に行っていきたい。 | |
| 次年度への改善点 | |
| 【目標設定】について | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・道徳・人権学習教材の情報提供を積極的に行っていきたい。 | |
| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 (校長経営戦略支援予算基本) | 進捗状況 |
| 取組内容①【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】(学-2) 「地域探訪」と銘打った班別フィールドワークを実施し、地域の歴史や伝統文化に触れながら郷土大阪を愛する心を育み、地域社会へ貢献する態度と意識を養う。また、班で調べた地域の歴史や伝統文化についての内容を様々なスタイルを用いてプレゼンテー | B |

ションすることで、PISA型学力の醸成による学力向上をめざす。

指標

- ・他者や社会との関係だけではなく自己と対話をしながら自らの考えを深め、地域という自分自身の基盤の中で行動していくきっかけとなる班別フィールドワークを実施する。
- ・課題発見・解決能力や論理的思考力、コミュニケーション能力、多様な観点から考察する能力の向上をめざし、プロセス重視のプレゼンテーションを実施する。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・後期学校生活アンケートにおける「思考力・判断力・表現力の育成のため、言語活動を取り入れるなど授業改善に努めている」の項目について、肯定的に答える教職員の割合は91%であり、昨年度を9ポイント下回った。コロナ禍において、本校教育の強みである言語活動を活用した授業に制限がかかったことが一因と考えられる。コロナ禍における言語活動について、さらなる工夫改善を図る必要がある。

【取組内容】について

- ・2学期に2年生が班別フィールドワークを実施し、地域の歴史や伝統文化に触れる機会を得ることができた。また、班別にタブレットを所持して撮影した活動写真を、事後のまとめとして作成した壁新聞への活用を図るなど、コロナ禍ではあったが、創意工夫を凝らして班活動を基盤としたグループワークを展開することができた。

次年度への改善点

【目標設定】について

発達段階に応じた学習活動における課題設定の最適化を図りながら、生徒による主体的・協働的な活動を通して思考力・判断力・表現力を育成する必要がある。新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた環境下ではあるが、教育活動の工夫・改善をより一層図りながら、生徒たちにとってより最善の状況で教育活動に取り組んでいきたい。

大阪市立東中学校 令和2年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

| | |
|---------------------|------------------------|
| 評価基準 A：目標を上回って達成した | B：目標どおりに達成した |
| C：取り組んだが目標を達成できなかった | D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【その他】</p> <p>学校園の年度目標</p> <p>1. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を100%にする。</p> <p>2. 令和2年度の学校生活アンケートにおける「校区小学校と連携する機会を設け、小中の円滑な接続に努めるとともに、学習活動や生活指導等の場面で活用している」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える教職員の割合を100%にする。</p> | B |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 （教務部） | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】（学-1）</p> <p>学校目標や今日的課題を含めた諸課題に基づき、各種の校内研修会を実施する。よりよい教育方法の研究に努め、教育活動実践上の様々な課題について研修を深める。</p> | |
| <p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校目標や今日的課題を含めた諸課題に係る研修を学期に1回実施する。 ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」と答える教職員の割合を100%にする。 | B |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 |
|--|
| <p>【年度目標】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」と答える教職員の割合は94%で、目標6ポイント下回った。 <p>【取組内容】について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月に生活指導研修、8月に評価に関する研修、休校中と9月と10月にICT研修を実施した。また、11月にはオンライン学習の試行を実施した。2月には評価に関する研修とICT研修を予定している。 |
| <p>次年度への改善点</p> |

| 【目標設定】について | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・次年度も、教育活動の諸課題解決に向けた実践力向上をめざし研鑽を積むことの必要性の啓発や、よりニーズに合ったテーマを精選し、主体的な学びが構築できるよう研修を定期的に実施していく。 | |
| <p>取組内容②【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】（学-1）</p> <p>公開授業週間を設けて、他教科の授業見学も行い、全教員が互いの指導力向上をめざして研鑽を積む。</p> | B |

指標

- ・公開授業週間を年1回実施し、全教職員が行う。
- ・公開授業の見学参加者数を全教職員、2回は公開及び見学するものとする。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「教員間で授業の方法についての意見交換し、指導内容・指導方法について話し合いを日常的に持ち、工夫と改善を行っている」と答える教職員の割合を全体の90%以上にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「校内研修は教育実践に役立つ有益なものとなっている」と答える教職員の割合は94%で、目標6ポイント下回った。

【取組内容】について

- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「教員間で授業の方法についての意見交換し、指導内容・指導方法について話し合いを日常的に持ち、工夫と改善を行っている」と答える教職員の割合は91%で目標を1ポイント上回った。
- ・コロナ禍の中、例年実施している公開授業週間も9月に実施することができた。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・次年度も、研修を生かし、教員の指導力向上をめざす。

取組内容③【施策3 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】(学-2)

小中の交流を深めるために、小中合同で研修会などを実施する。また、小中学校での相互授業参観や授業研究を実施することで、生活指導や学習指導方法の改善に役立てる。

B

指標

- ・小中合同で研修会を実施する。
- ・小中学校での相互授業参観や授業研究を実施する。
- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「校区の小学校と連携する機会を設け、円滑な接続や教育活動全般に生かしている」と答える教職員の割合を100%にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【年度目標】について

- ・令和2年度の学校生活アンケートにおいて「校区の小学校と連携する機会を設け、円滑な接続や教育活動全般に生かしている」と答える教職員の割合は97%で、目標を3ポイント下回った。

【取組内容】について

- ・本年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、体験学習や部活動見学は実施できなかつたが、例年行っている小中連絡会は実施できた。アンケート結果は、これまでの取り組みにより、教職員の小中連携を意識した教育活動が定着してきた表れだと考えられる。

次年度への改善点

【目標設定】について

- ・次年度は、連携を密にし、小中の取り組みの精査をして、有意義な交流をめざす。